

埼経協ニュース



2・3

'17 月号

平成二九年新年会員懇談会 三四〇名の参加者を得て盛大に開催

特別講演

「高収益事業の創り方」と題して

神戸大学大学院経営学研究科教授

三品和広氏が講演

平成二九年新年会員懇談会は一月十一日(水)一三時三〇分から十七時まで、パレスホテル大宮で開催された。当日の出席者はご来賓の方々らびに会員を合わせて三四〇名であつ

た。(ご来賓のご芳名は四頁に掲載) 特別講演は神戸大学大学院経営学研究科教授 三品和広氏が「高収益事業の創り方」と題して講演。成功・失敗両面の数多くの事例分析に基づ

く実践的な戦略論は示唆に富んだ内容であつた。当日のプログラムは次の通り

【第一部 挨拶・講演の部】

挨拶・講演の部

開会挨拶 上條正仁会長

(株)埼玉りそな銀行

シニアアドバイザー



新年会員懇談会



開会挨拶をする上條正仁会長

今年の経営環境は、変化の大ききスピードがますます拡大・加速する、まさに「変化が常態化する」状況にある。経営者にとっては、この変化を好機と捉え、将来の成長へチャレンジする経営姿勢が必要である。見通しにくい変化の時代に、企業の持続的な成長を実現していくためには、前向きな気持ちで変化に臆することなくチャレンジする姿勢が極めて重要。良い意味での楽観主義、次のステップを踏み出す勇氣そして将来に向けた実行が現下の企業経営に求められている。実際は、変化はリスクと考えている経営者が多いことと思うが、しかし変化とは、企業経営にとってリスクではなくチャンスと捉え

【第二部懇親パーティーの部】

開会挨拶 満岡 隆一副会長

(ボッシュ株)

取締役専務執行役員

来賓祝辞

乾杯 さいたま市長 清水 勇人氏

埼玉大学学長 山口 宏樹氏

懇談

閉宴挨拶 石井 進副会長

(AGS株)代表取締役社長

るべきなのである。実は、変化、英語でいえば、「CHANGE」の「G」を「C」に変えると、「CHANGE」となる。このことを、言葉の遊びと思わずに、CHANGEはCHANGEに「楽観主義、勇氣、そして実行」を念頭に経営にあたっていただきたい。

来賓挨拶

埼玉県知事 上田 清司氏

財務省関東財務局長 小野 尚氏

厚生労働省埼玉労働局長 田畑 一雄氏

埼玉県教育委員会教育長 関根 郁夫氏

連合埼玉会長 小林 直哉氏

来賓ご紹介

特別講演

演題「高収益事業の創り方」

講師

神戸大学大学院経営学研究

科教授 三品 和弘氏

会場 スナップ



340名の参加者を得て盛大に開催された新年会員懇談会



来賓挨拶
田畑一雄 埼玉労働局長



来賓挨拶
小野 尚 関東財務局長



来賓挨拶
上田清司 埼玉県知事



来賓挨拶
小林直哉 連合埼玉会長



来賓挨拶
関根郁夫 埼玉県教育委員会教育長



来賓の方々（左から）
中村雅範 埼玉県産業技術総合センター長
織田秀明（公財）埼玉県産業振興公社理事長
渡辺 充 埼玉県産業労働部参事兼副部长



後閑 博 埼玉県信用保証協会会長
三浦宜彦 埼玉県立大学学長
菊池真紀 埼玉経済同友会代表幹事
星野 進 埼玉県中小企業団体中央会会長



講演謝辞を述べる藤池誠治副会長



講演風景



講演する三品和広氏



閉会挨拶
石井 進副会長



乾杯挨拶
山口宏樹埼玉大学学長



来賓祝辞
清水勇人さいたま市長



懇親パーティーの部開宴挨拶
満岡隆一副会長



懇談風景

目次 頁

- 平成二九年新年会員懇談会 一
- 科学の甲子園全国大会埼玉県開催決定 五
- 埼玉県キャリア教育実践アワード二〇一七表彰式 六
- 女子高生の働き続ける意欲育成推進事業 八
- 埼玉クイズ王決定戦 十
- 秋季・春季地区協議会 十二
- 第十二回トップセミナー 十五
- 第十三回・第十四回トップセミナー 十六・十七
- 年末調整・給与計算実務セミナー 十七
- 労働法実務対策法講座 十八
- 第四回特別セミナー 十九
- 第四回CSR委員会 二〇
- 第五回CSR委員会 二一
- 働く女性応援講座 二二
- 四半期企業経営動向調査 二二
- 埼玉大学研究者との出会いの広場 二六
- ものづくり大学へようこそ 二七
- 第十五回渋沢栄一賞表彰式 二八
- ものづくり大学特別公開講座 二九
- 企業経営者と生徒・保護者・教員による四者面談会 三〇
- 埼玉県からのお知らせ 三一
- 青年経営者部会 三二
- ワンポイント労働法 三四
- 事業だより、広告 三五
- 告知版、会員の動き 三六

来賓に各界から多士済々

(敬称略・順不同・役職名は開催日現在)

▽埼玉県知事 上田清司
▽さいたま市長 清水勇人

《講師》
▽神戸大学大学院経営学研究所 教授 三品和広

《国関係》
▽財務省関東財務局 関東財務局長 小野 尚
▽財務省関東財務局 総務部長 川瀬 透
▽財務省関東財務局 総務部次長 寺田早苗

▽財務省関東財務局 総務部財務広報相談室長 櫻井雅和
▽経済産業省関東経済産業局 地域経済部次長 高橋一夫

▽独立行政法人造幣局 さいたま支局長 郷 佳也
▽厚生労働省埼玉労働局長 田畑一雄
▽厚生労働省埼玉労働局長 総務部長 坂田善廣

▽厚生労働省埼玉労働局長 総務調整官 新井孝男
▽厚生労働省埼玉労働局長 総務課長 小久保勉
▽厚生労働省埼玉労働局長 労働保険徴取課長 中島俊広

▽厚生労働省埼玉労働局長 雇用環境・均等室長 布川裕子
▽厚生労働省埼玉労働局長 労働基準部長 神戸 崇
▽厚生労働省埼玉労働局長 監督課長 子安成人

▽厚生労働省埼玉労働局長 賃金室長 野中信孝
▽厚生労働省埼玉労働局長 健康安全課長 布施武雄
▽厚生労働省埼玉労働局長 労災補償課長 東條比呂司

▽厚生労働省埼玉労働局長 職業安定部長 平川雅浩
▽厚生労働省埼玉労働局長 職業安定課長 進藤裕子
▽厚生労働省埼玉労働局長 職業対策課長 森田哲也

▽厚生労働省埼玉労働局長 地方訓練受講者支援室長 洪沢修一

▽厚生労働省埼玉労働局長 需給調整事業課長 倉林正彰
▽日本銀行 調査統計局調査主幹 清水雅之
▽防衛省自衛隊埼玉地方協力本部 防護課長 田村慎一

▽防衛省自衛隊埼玉地方協力本部 防護課長 田村慎一
▽国立研究開発法人科学技術振興機構 理数学習推進部才能育成グループ 調査役 小川千津

《県関係》
▽産業労働部 参事兼副部長 渡辺 充
▽産業労働部 雇用労働局長 江森光芳
▽産業労働部 産業支援課長 増田文之

▽産業労働部 シニア活躍推進課長 野尻一敏
▽産業労働部 ウーマノミクス課長 大飼典久
▽埼玉県産業技術総合センター センター長 中村雅範

▽埼玉県産業技術総合センター 企画・総務室長 正能修一
▽埼玉県議会 副事務局長 下田正幸
▽県民生活部 国際課長 小池要子

▽県民生活部 共助社会づくり課長 影沢政司
▽埼玉県教育委員会 教育長 関根郁夫
▽埼玉県教育局県立学校部 部長 古川治夫

▽埼玉県教育局県立学校部 副部長 渡邊 亮
▽埼玉県教育局県立学校部 課長 高岡 豊
▽埼玉県教育局県立学校部 課長 羽田邦弘

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭
▽埼玉県教育局県立学校部 校長 加藤秀昭

▽(公財)さいたま市産業創造財団 理事長 山縣秀司
▽(公財)さいたま市産業創造財団 監事 江田元之
▽(公財)産業雇用安定センター埼玉事務所 所長 齋藤明男

▽埼玉県生産性本部 事務局長 加藤 孝
▽独・高齢・障害・求職者雇用支援機構埼玉支部 埼玉職業能力開発促進センター 所長 松山玲子

▽埼玉県雇用対策協議会 専務理事 神山哲雄
▽(株)埼玉りそな銀行 代表取締役副社長兼執行役員 岩田一男

▽(株)埼玉りそな銀行 取締役兼常務執行役員 増田賢一朗
▽(株)埼玉りそな銀行 常務執行役員埼玉西地域営業本部長 藤田正幸

▽(株)埼玉りそな銀行 執行役員埼玉中央地域営業本部長 前田哲哉
▽(株)埼玉りそな銀行 執行役員埼玉北地域営業本部長 醍醐尚人

▽(株)埼玉りそな銀行 執行役員埼玉北地域営業本部長 醍醐尚人
▽(株)埼玉りそな銀行 執行役員埼玉北地域営業本部長 醍醐尚人

▽(株)武蔵野銀行 地域サポート本部 室長 森山誠一
▽(株)武蔵野銀行 執行役員本店営業部長 齊藤政春
《大学及び研究機関》
▽埼玉大学 学長 山口宏樹

▽埼玉大学 理事・副学長 佐藤勇一
▽埼玉大学 理事 吉澤雅隆
▽埼玉大学 研究協力部長 亀山輝男

▽埼玉大学 参事役 星野雅志
▽埼玉大学 研究機構オーブナイノベーションセンター センター長 松岡浩司

▽埼玉大学 研究機構オーブナイノベーションセンター 学長 小林直哉
▽ものづくり大学 専務理事 北尾美成

▽ものづくり大学 専務理事 北尾美成
▽ものづくり大学 専務理事 北尾美成

「科学の甲子園全国大会が

埼玉県で開催

第七回～九回（2017～19年度）

全国の高校生等が都道府県を代表して科学の思考力・技能をチームで競う「科学の甲子園全国大会」（主催：科学技術振興機構Ⅱ JST）について、平成二十九年（第七回）から平成三十一年度（第九回）までの三年間の開催地が、埼玉県に決定した。

同大会は科学技術振興機構が毎年開催している大会で、各都道府県大会（主催：各教育委員会）で優勝した高校の代表生徒六名～八名がチームとなり、筆記競技（数学・物理・化学・生物・地学・情

（これまでの全国大会出場校）

開催回(年)	代表校
第一回 (2012年)	県立浦和高等学校 (全国大会優勝)
第二回 (2013年)	県立大宮高等学校
第三回 (2014年)	県立大宮高等学校
第四回 (2015年)	県立大宮高等学校
第五回 (2016年)	私立開智高等学校
第六回 (2017年)	県立浦和高等学校

報）と実技競技（三競技）を行い、総合点で日本一の高校を目指す大会で、埼玉県での開催は初めて。

第七回大会は平成三十年三月下旬、大宮ソニックシティとさいたま市記念総合体育館で開催される。

本会は、同大会の趣旨に賛同し第四回大会から協働パートナーとなり、第五回大会からは県大会から全国大会まで通して協賛する企業を募り、会員企業五社からご協賛をいただいた。本年実施される第六回大会

会でも六社・一大学の協賛をいただくなど、将来の本県の産業を担う人材育成に向けた産学連携による科学技術教育の推進に寄与してきた。

開催地決定の理由は「産学官連携による持続可能で地方色豊かな運営」をポイントに埼玉県教育委員会が全国大会誘致を提案したこと、本会、埼玉大学など産学官が連携して大会運営に臨む姿勢とこれまでの教育に対する産学連携の実績が高く評価された。また、埼玉県出身のノーベル賞受賞者（大村智教授、梶田隆章教授）の講演会開催や、鉄道博物館と連携した

集客施策の実施など具体的・独創的な内容も高く評価されたようである。

埼玉県での開催が決定したことにより、本県においても科学技術立県として科学系人材の育成の機

運が一層高まることを期待している。第七回大会においては、協働パートナー数社と協賛企業二十社程度の募集を募る予定である。引き続き多くの企業のご協賛をお願いしたい。



特別講演会講師

特別講演会の様子
(第6回県大会)

第5回大会

第6回大会



東京大学宇宙線研究所 准教授
大内 正己氏
演題「科学好き高校生のための
「宇宙研究最前線」」



(株)ユウグレナ 代表取締役社長
出雲 充氏
演題「僕はミドリムシで世界を
救うことに決めました。」

第5回埼玉県大会

第6回埼玉県大会



協賛5社の社名(掲出)



協賛7社の社名(掲出)



集合写真(第5回)



集合写真(第6回)

埼玉県キャリア教育実践アワード 2017表彰式開催



最優秀賞を受賞した皆さん

- 県教育委員会 関根郁夫教育長（前列中央右）
- 埼玉県経営者協会 上條正仁会長（前列中央左）

埼玉県教育委員会と本会の共催

による埼玉県キャリア教育実践アワード2017表彰式が二月三日（金）パレスホテル大宮で開催された。

今日、若者一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるキャリア教育は極めて重要である。一方、産業界においても学校教育活動に対する支援を含め、CSR活動の推進に関する社会的要望や関心が高まっている。各校がこれまでのキャリア教育実践の中で培われ継続・蓄積されてきたノウハウは教育財産であり、県立高校と企業が連携した産業人材育成の取組は、産学連携のロールモデルである。本表彰式は、その取組の中から優れた実践に対して、支援する企業と学校双方を表彰することで本県キャリア教育を推進しようと埼玉県教育委員会と本会が実施しており、今回で四回目となる。

当日は県教育委員会教育長 関根郁夫氏、県立学校部長 古川治夫氏、県立学校部高校教育指導課長 羽田邦弘氏、本会会長 上條正仁 他企業関係者並びに学校関係者総勢約七十七名が参加して行われた。

最優秀賞には株式会社ビー・アンド・プラス（ときがわ町）と県立川越工業高校が協同で取り組んだ『ワイヤレス給電による鉄道走行チャレンジ』が選ばれた。

同校では電気科の課題研究（電車班）の授業で三年生十二名が、ワイヤレス（非接触）給電の技術開発を行っている（株）ピー・アンド・プラスの協力を得て、大容量で急速充電ができる蓄電装置キャパシタ（Panasonic社製）を活用し、

架線が無くとも走行できる夢の電車を製作しようという課題に取り組んだ。実際の線路を走行できる電車のような大きな製作を行うには教員では指導しきれない。他で類を見ない新たな題材であり企業の協力なしでは成しえない部分がある。学校内だけでは学べない最先端の技術を企業の技術者から直接指導を受け、困難な課題に挑戦した経験は将来の産業人材育成においても貴重な取組となった。結果、同校の文化祭において、敷地内に敷設した線路でお客を乗せて走行するという目標を達成することができた。単なる知識や技能の指導だけでなく、職業人として新たな技術・困難な課題にチャレンジしようとする「ものづくり」への情熱、責任感を醸成させながら社会性の成長にもつながる取り組みであると高く評価された。

まず、あけぼの123株式会社の協力を得て県立羽生ふじ高等学校園が協同で取り組んだ『生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばし、特性を生かして100%企業就労を目指す』が選ばれた。地元企業の協力を得て職場実習を体系的に取り組んだ実践である。職場実習先としての連携だけでなく、企業も学校が目指す「働く力」の育成を支援し、開校以来初の企業就労率100%を達成した。地域社会との関わりを重視し、企業と学校が共に密接な連携関係をもって指導した実践として高く評価された。

つづいて二組目の優秀賞は、株式会社丸浜設計舎、株式会社グロイーバルソフトウェア、株式会社ウエーブ、株式会社やまの、児玉設備工業、藤原産業株式会社との6社の協力を得て県立児玉白楊高等学校が協同で取り組んだ『地域密着型の産学官連携「教育支援」プロジェクト「ACTION Re-AC-TION EDUCATION」-ICTを活用した近未来型庭園を創る！高校生のアイデアが未来の農業の在り方を変える』が選ばれた。



最優秀賞の㈱ビー・アンド・プラス営業部の進藤様
(前列左から四人目)、佐藤様(前列左から三人目)
と県立川越工業高校の皆さん



優秀賞のあけぼの123株式会社の代表取締役社長 山元様
(前列左から三人目)と羽生ふじ高等学園の皆さん



優秀賞の㈱グローバルソフトウェアの代表取締役 狩野様、
㈱丸浜設計舎の代表取締役 濱田様、㈱ウェブの代表取
締役社長 遠藤様、㈱やまのはの代表取締役 村山様、児
玉設備工業の常務取締役 飯島様、藤原産業㈱ 岡本様と
児玉白楊高校の皆さん



優秀賞の番場商店街振興組合の理事長 小泉様(前列
左から四人目)と秩父農工科学高校の皆さん

農業科と工業科の生徒が連携し、地域企業6社の協力を得てICTを活用した半自動灌水システム等を備えた庭園をデザインし制作した実践である。生徒のアイデアを具現化する庭園制作の課題に対して、企業と生徒が相互に意見交換し取り組んだ実践プロジェクトであり、生徒のアクションに社会がリアクションする新たな教育モデルの実践として高く評価された。

三組目の優秀賞は、番場商店街振興組合の協力を得て県立秩父農工科学高等学校が協同で取り組んだ『空き店舗の有効活用〜農工チャレンジショップの経営〜』が選ばれた。

地元の番場商店街振興組合と協

力し、将来の地域社会や経済の担い手育成に取り組んだ実践である。商店街の空き店舗の有効活用を企画し、販売実習やイベント参加など生徒主体で地域社会との関わりを数多く取り入れた地域創生にかかる実践として高く評価された。

各賞は以下のとおりである。

最優秀賞(一組)

○乾電池による鉄道走行のギネス
世界記録チャレンジ
・株式会社ビー・アンド・プラス
・県立川越工業高校

優秀賞(三組)

○生徒一人ひとりの能力を最大限

に伸ばし、特性を生かして100%企業就労を目指す

○あけぼの123株式会社
・県立羽生ふじ高等学園
○地域密着型の産学官連携「教育支援」プロジェクト
・ACTION ReACTION EDUCATION ICTを活用した近未来型庭園を創る！高校生のアイデアが未来の農業の在り方を変える

・株式会社丸浜設計舎
・株式会社グローバルソフトウェア
・株式会社ウェブ
・株式会社やまのは
・児玉設備工業
・藤原産業株式会社

・児玉白楊高等学校
○空き店舗の有効活用〜農工チャレンジショップの経営〜
・番場商店街振興組合
・秩父農工科学高等学校

奨励賞(四組)

○未来を創る子どもを育てる
〜保育士への夢〜
・須影保育園
・誠和福祉高等学校
※内容・総合学科保育系列の生徒と保育園が連携したキャリア体験実習。実際に保育体験することで職業観が育成され、実習を経て新たな知識や指導法の獲得、園児への対応、社会性など現場実習により実践的に学ぶ就業体

験プログラム。
○本庄版デュアルシステム 企業連携による就業体験の実施
・埼玉グランドホテル本庄
・本庄特別支援学校
※内容・教育課程に位置づけた本庄版デュアルシステム。企業就労、障害者雇用の理解を図るため地域企業と連携。独自のキャリア教育プログラムによる就業体験実習を実施。

○次代を担う工業技術者育成プロジェクト(高校生による体験型プログラムの開発)
・株式会社丸広百貨店
・株式会社そごう・西武 西武所沢店
・川越工業高等学校

※内容…生徒が自ら開発した体験プログラムを地域企業と連携して実施。企画展のPRリーフレットや記念マークのデザイン作成、企画に参加した小学生への指導などを通して実践的に学ぶ学習プログラム。

○地域と連携した商品開発・販売実習による実践的職業教育

・株式会社花結び
・鳩山高等学校

※内容…商業科の生徒が地域企業と連携して鳩山の特産物開発をテーマに企画提案して販売。就業意欲、職業観の育成、社会性を育むなどをねらいとした生徒主体の就業体験プログラム。

本会はこれからも人材育成のための本県キャリア教育を支援していく所存である。会員の皆様方にもご協力を賜りたい。



表彰式会場の様子（会長挨拶）



第一部基調講演（根岸専務理事）



各クラスに分かれての座参会

「平成二八年度女子高生の働き続ける意欲育成推進事業 浦和第一女子高等学校」 県内企業女性リーダー十名を迎えて開催

女性の活躍推進は、わが国経済社会の持続的な発展にとって重要な成長戦略です。埼玉県でも、女性が働き手となり、自己実現を

して生き生きと輝き活躍する社会の実現をはかるためウーマノミクスプロジェクトに取り組んでいます。県内企業においても女性社員のキャリア意識の向上、キャリア形成の促進など、女性が働きがいをも

つて就労できる職場づくりに取り組んでいることと思います。県教育委員会では、県立高校の

女子生徒の職業観や就業意欲を高めようと、経済団体等と連携した就職指導、キャリア教育の充実をはかるため、働き続ける意欲やキャリアプランニング能力の向上をねらいとして「女子高校生の働き続ける意欲育成推進事業」を実施

し、本会においては、県立高校への指導者推薦等で、本事業に協力しています。

こうした中、平成二八年十二月十四日、浦和第一女子高校において、本会推薦の県内企業十名の女性リーダーを講師としてお迎えし、講演会及び、各クラスにおける座談会が実施されました。

◆第一部【講演会】

講演会では、本会根岸専務理事から「働くことの素晴らしさ、そして大切さ」と題し基調講演があった。講演の中で根岸専務理事は、今後求められる人材として、新しい時代をチャンスと捉え常に新しいことに挑戦し続ける「イノベーション型人材」があげられるとした。そしてイノベーション型人材となるには、まず大きな目標を設定すること、加えて「限界」出発点。壁に当たってそこから取組や思考も始まる。ピンチはチャンスと捉え、失敗しても諦めずに再挑戦することが重要だ」など、多くの心に残るメッセージを生徒に投げかけた。



講師の皆さんによる自己紹介

◆第二部【座談会】

対象 一年生 四〇五名

（十クラス）

講師

- ・ 一組…AGS株式会社 公共事業本部 営業第二グループエキスパート 江原 知穂氏
- ・ 二組…Great Place to Work® Institute Japan シニアコンサルタント 今野 敦子氏
- ・ 三組…スバル用品株式会社 総括部 副部長 中村 菜摘氏
- ・ 四組…株式会社テレビ埼玉 報道制作局制作部 菅 美香氏

・五組：株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部 主任研究員 久我 尚子氏

・六組：日本信号株式会社 総務部 秘書グループ 秘書 翠川 裕子氏

・七組：東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社 営業部企画課 販売機器・制度GL 関根 珠子氏

・八組：株式会社HUGRES (ハグリス) 代表取締役 内田 ひとみ氏

・九組：むさし証券株式会社 人事総務部 次長 森本 美和氏

・十組：株式会社武蔵野銀行 人事部 人材活躍推進室長 谷口 周子氏

各教室に分かれて行われた座談会では、県内の第一線の職場で女性幹部として活躍する10名が教壇に立った。学生時代に取り組んだこと、現在携わっている仕事に就いたきっかけややりがい、働くうえで考えてほしいことなど、将来、社会に飛び立つ高校生に対して自身のキャリア体験を通して女性の役割やキャリアの積み方について考えるメッセージを伝えた。参加した生徒は真剣なまなざしで講師のアドバイスを聞き、時には積極的に質問をしながら、自らが働くイメージを膨らませていた。

〈生徒の事後アンケート〉

「毎日の仕事は同じことの繰り返しですが、自分の行動によってそれを膨らませることが出来る。人と直接かかわる仕事でなくても、働き方によっては、人から感謝されるような仕事もできることがわかり、私も将来人に役立つ仕事に取り組みたいと思いました。」

「本当に考えなければならぬのは、夢を実現することではなく、実現した際に自分が何をやりたいのかということなのだとわかった。」

「仕事と子育ての両立のため私たちには何が出来るのかということを考えていきたいと思います。」

「偶然の出会いを大切にする、自分とは関係ないかもしれないことでも積極的に挑戦し、出会いを大切にすべきであること、何気なく始めたことでものちのち大切になることがあることを学びました。」

「経験を増やし、一歩進んだところで新たな選択肢が見えてくるのが分かった。達成していくからこそ、次のレベルを上げられる。」

「普段の学校生活ではなかなか学ぶことができない将来について考えていくきっかけとなる貴重な時間でした。」

今回参加した生徒にとって、講師からのアドバイスは、女性が働くことについての意味や、仕事に対する考え方など、夢や将来の進路を考察する一助となったようである。



AGS 株式会社 公共事業本部 営業第二グループエキスパート 江原 知穂氏



むさし証券株式会社 人事総務部 次長 森本 美和氏



Great Place to Work® Institute Japan シニアコンサルタント 今野 敦子氏



株式会社テレビ埼玉 報道制作局制作部 菅 美香氏



株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部 主任研究員 久我 尚子氏



日本信号株式会社 総務部 秘書グループ 秘書 翠川 裕子氏



スバル用品株式会社 総括部 副部長 中村 菜摘氏



株式会社 HUGRES (ハグリス) 代表取締役 内田 ひとみ氏



東日本旅客鉄道株式会社大宮支社 営業部企画課 販売機器・制度 GL 関根 珠子氏



株式会社武蔵野銀行 人事部 人材活躍推進室長 谷口 周子氏

More For You

もっと、街・暮らし・笑顔のために

武蔵野銀行



埼玉りそな銀行

RESONA

りそなソーシャルメディアネットワーク

りそなグループのソーシャルメディア 公式アカウントをご紹介します。

りそなグループでは、Facebook、Twitter、YouTube、LINEのソーシャルメディアを通じて、情報発信を行っています。





第5回埼玉クイズ王決定戦



第5回埼玉クイズ王決定戦は「ウェスタ川越予選」、「コクーンシティ予選」、「秩父市歴史文化伝承館予選」を経て、2月26日にさいたまスーパーアリーナで決勝戦が開催され、チームくろちゃん（秩父市）が優勝しました。なお、第2位は武南3A（さいたま市）、第3位は頑張れ!! アストライア（蓮田市）となりました。

ウェスタ川越予選（12月23日）



三択クイズ

- ◇申込みチーム数 76チーム (228人)
- ◇参加チーム数 62チーム (186人)
- ◇決勝進出チーム 3チーム
 - ・「武南3A」 (さいたま市)
 - ・「懲りずに5度目」 (川越市)
 - ・「OCT48」 (さいたま市) 【敗者復活チーム】



早押クイズ



参加者による全体写真撮影



決勝進出チーム

コクーンシティ予選（1月15日）



早押クイズ

- ◇申込みチーム数 153チーム(459人)
- ◇参加チーム数 131チーム (393人)
- ◇決勝進出チーム 6チーム (午前)
 - ・「チームくろちゃん」 (秩父市)
 - ・「ゴールドラッシュ」 (さいたま市)
 - ・「大宮クーベア」 (川越市) 【敗者復活チーム】



決勝進出チーム（午前）

- (午後)
 - ・「埼玉県商工会職員チームA」(久喜市)
 - ・「ランナーなし」 (川越市)
 - ・「ソルバルウ」(志木市) 【敗者復活チーム】



参加者による全体写真撮影



決勝進出チーム（午後）

秩父市歴史文化伝承館予選（1月21日）



早押クイズ

- ◇申込みチーム数 94チーム
(282人)
 - ◇参加チーム数 33チーム
(99人)
 - ◇決勝進出チーム 3チーム
 - ・「まんじゅう！」（さいたま市）
 - ・「頑張れ!! アストライア」
(蓮田市)
 - ・「サイタマニア イシ★バシと
埼玉田舎っぺ新聞」 (川越市)
- 【敗者復活チーム】



三択クイズ



参加者による全体写真撮影



決勝進出チーム

埼玉クイズ王決定戦決勝戦（2月26日）さいたまスーパーアリーナ



協賛企業様の御紹介

- ◇参加チーム 12チーム
(36人)
- 優勝 チームくろちゃん
(秩父市)
- 準優勝 武南3A
(さいたま市)
- 第3位 頑張れ!! アストライア
(蓮田市)



優勝チーム



優勝チームを決める決定戦



参加チーム・協賛企業様による集合写真



表彰式

埼玉クイズ王決定戦にご協賛いただきました会員企業の皆様、誠にありがとうございました。
～ご協賛企業の皆様～

(株)小山本家酒造、ポラス(株)、(株)埼玉りそな銀行、(株)武蔵野銀行、埼玉縣信用金庫、(株)テレビ埼玉、(株)ハイデイ日高、東日本旅客鉄道(株)大宮支社、アイルコーポレーション(株)、(株)JTB 関東、関東グリコ(株)、大栄不動産(株)、AGS (株)、日本信号(株)、(株)サイサン、キリンビール(株)、(株)パレスエンタープライズ

『(株)JR東日本テクノハートTESSSEI 視察会〜従業員の意欲を高め生産性を劇的に改善させた「七分間の奇跡」に学ぶ』を開催

十二月十三日(火)の平成二八年度秋季中部地区協議会は、(株)JR東日本テクノハートTESSSEIにおいて視察会を開催し、三四名の方が参加されました。

(株)JR東日本テクノハートTESSSEIは、美しい制服に身を一つんだ清掃スタッフたちが驚異的な早さで新幹線を清掃する模様が「七分間の奇跡」として海外メデ

イア等に大きく取り上げられた企業で、ハーバードビジネススクール(HBS)においても、当社の事例が「経営者のあるべき姿を示した事例」として高く評価され、豊富な事例を通じた授業を重視するHBSの必修教材として採用されています。当社は、約十年前前までは苦情が多く従業員の士気も上がらないほどの問題を抱えた企業でしたが、「自分たちはダメだと思いついて」従業員に誇りや生きがいを持ってもらい、従業員の意欲を高めることに取り組んだ結果、現場力に富んだおもてなしが溢れる企業になりました。

入線する新幹線を整列して迎え入れる



車両清掃の様子を見学



見事なチームワークで車両清掃を行っていた



当日は、中部地区協議会 宮澤政信議長(マルキユー(株)代表取締役会長 本会副会長)から開会挨拶を行い、続いて、(株)JR東日本テクノハートTESSSEI 取締役運輸業務部長 福田 恭寛氏からご挨拶をいただきました。その

後、二班に分かれて新幹線鉄道車両の折り返し清掃作業の見学と、(株)JR東日本テクノハートTESSSEI おもてなし創造部 担当部長 平野 健太郎氏から業務説明をいただきました。

◇施設見学概要

新幹線ホーム上から、実際に運行中の新幹線車両の七分間清掃の様子を見学した。一チーム二人体制で、一日に十五本から二五本の車両清掃を担当している。入線する新幹線を一礼して迎入れ、一礼して見送るまでの間、見事なチームワークで、テーブルや窓の拭き掃除、ヘッドレストカバーの交換や座席の汚れ等の確認を行っていた。

◇業務説明概要

新幹線が到着して折り返し発車するまでの十二分間のうち、乗客の乗降にかかる五分を除いたわずか七分間で車内清掃を行うことから、TESSSEIの清掃チームの仕事は「七分間の新幹線劇場」と



開会挨拶をする宮澤政信議長



挨拶する福田恭寛氏



業務説明を行う平野健太郎氏

呼ばれている。

昭和二十七年に前身の鉄道整備(株)が誕生した頃、車両清掃業務はまだ鉄道輸送の裏方の時代であった。二〇〇〇年頃から全社的なサービス向上に取り組み、清掃業務の目的に「新しいトータルサービス」を掲げ、現場の社員にも改善意識が生まれ始めた。

マニュアルどおりの管理ではなく、社員が現場で感じた危険な行

為とその対策をセットで発信して

安全配慮に努めるとともに、社員同士で良い所を互いに褒め合う文化の醸成など、社員の自信とモチベーション向上につながる取り組みを実践してきた。

その結果、社員の意識と行動に変化をもたらし、お客様の満足度を高めることを最優先に考える現場力が生まれ、TESSEI社員のマインドを支えている。

平成二八年度 春季西部地区協議会

『春季労使交渉・協議に臨む経営側の基本姿勢』と『部下を育てられない「名ばかり管理者」を变える!』の二テーマで開催

二月七日(火)の西部地区協議会は、丸広百貨店川越店九階バンケットルームにて開催され、二二名の方々が参加しました。

まず、西部地区協議会 満岡隆



開会挨拶をする満岡隆一議長

一議長(ボツシュ(株)取締役専務執行役員)から開会挨拶を行い、続いて講演一として、経団連事業サービス 人事賃金センター長 平田武氏から『春季労使交渉・



講演1の講義を行う平田武氏

協議に臨む経営側の基本姿勢』と題して講演が行われました。続く講演二では、(株)新経営サービス 人材開発部 コンサルタント 岡野隆宏氏から、『部下を



講演2の講義を行う岡野隆宏氏

春季西部地区協議会



育てられない「名ばかり管理者」を变える!』と題して、日本企業における人材育成モデルの変化や管理者のマネジメント強化に欠かせないポイントについてご講演いただきました。

◇講演一の概要

経労委報告(経営労働政策特別委員会報告)は、その年の春季労使交渉・協議における経営側の基本的な考え方を取りまとめ、経団連としての基本的な見解を示すものとして、広く活用されている。以下、二〇一七年度版経労委報告の主要なポイント。

・世界経済と日本経済の動向
OECDによると、二〇一六年の世界経済の実質成長率は、二・九%増と前年から減速する見通しで、二〇一七年以降は緩やかに回復すると見込まれるものの、中国など新興国経済の減速、英国のEU離脱問題の帰趨をはじめとしたEUの政治・金融動向、米国の新政権下での政策運営など、先行き不透明感は拭えない。

日本経済は、輸出や生産を中心に持ち直しの兆しが見られ、雇用情勢は改善が継続し先行きは緩やかな成長を予測するが、世界経済等の動向に伴う下振れリスクには留意が必要。企業業績は一部に減益の動きがみられたが、為替動向次第では二〇一七年度にかけて輸

出企業・製造業を中心に収益拡大の動きが広がる見込み。

・地域経済と中小企業の動向

地域経済は、緩やかな回復傾向にあるものの一部に弱さがみられる。増加傾向にあった中小企業の経営利益は、足元では伸びが鈍化し業況判断も横ばいである。中小企業の大きな課題である「人材の確保」には、自社の良さや強みの積極的な発信といった中小企業自らの取組に加え、地方別経済団体や行政の支援が必要である。

・経営側の基本スタンス

①労使交渉にあたっての基本認識
マクロで見た企業収益は全体として高水準にあり、ファンダメンタルは総じて堅調である。円安傾向が続けば、輸出企業・製造業を中心に収益が向上する企業の増加も見込まれる中、賃金引き上げのモメンタムを二〇一七年も継続していくことが必要。一方、多くの企業が三年連続して大幅な賃金引き上げを実現したにもかかわらず、将来不安や消費者マインドの変化により個人消費は上向いていない。将来不安の払拭に向けて官民挙げての取組を進めるべきである。

②賃金決定の原則

各企業の賃金は、様々な考慮要素を勘案しながら、適切な総額人件費管理の下、自社の支払い能力を踏まえ、労使での徹底した議論

を経て企業が決定する。その上で、経済の好循環を力強く回すという社会的要請を重視するとともに、働き方・休み方改革の実現も視野に検討すべきである。

③年収ベースの賃金引き上げに向けた多様な選択肢

賃金決定の大原則を踏まえた上で、近年の社会経済情勢も考慮しながら、自社の収益に見合った積極的な対応が望まれる。特に、収益拡大又は中期的なトレンドとして収益体質が改善している企業には、二〇一六年に引き続き「年収ベースでの賃金引上げ」の前向きな検討を求めらる。

年収ベースの賃金引上げの検討では、「人材への投資」の観点も重視しつつ、定期昇給やベースアップ、賞与・一時金の増額、諸手当の見直し等が柱となる。他に、配偶者控除等の変更を契機とした配偶者手当の再点検・見直しや、基本給の変更を伴わない所定労働時間の短縮、介護手当やプレミアムフライデー手当の創設など、これまでになく新しい選択肢もある。自社の課題や実情に適した方法を企業労使で徹底的に話し合い、多様な選択肢から見出していく必要がある。

◇講演二の概要

雇用形態や経済情勢等社会的な前提条件の変化に伴い、日本企業

における人材育成モデルも変化している。特に、仕事の成果の出し方や部下の育成方法について、効率的で生産性の高い手法が求められており、自らも仕事を抱えながら管理者としての役割に悩みを抱える者も多い。

そもそも管理者には、「リーダー、フォロワー、コーディネーター」の役割に加え、「プレイヤー」として過去の経験・知識を生かした高い成果の創出が求められる。そのためには、部下の成長を促して信頼関係を築き、チームとしてのパフォーマンスレベルを上げる必要がある。

部下の成長には最初の職場環境が大きく影響する。部下は上司の言動や行動をよく見ており、悪い環境では悪い習慣を身につけてしまふ。「インプリンティング（刷り込み）」が社会人の初期段階でも起こると言われている。

部下へ影響を与える源泉には、「見本、動機、受容」がある。上司は、自らを律して範を示し、部下に関心を持ってコミュニケーションを図り距離を縮めるとともに、できない部分を指摘するだけでなく成果を認めて受容する器を持つ。それらを積み重ねていくことで信頼関係が築かれて部下が育っていく。

平成二八年度 春季中部地区協議会

『春季労使交渉・協議に臨む経営側の基本姿勢』をテーマに開催



開会挨拶をする宮澤政信議長

二月二十日(月)大宮ソニックシティイビル九階会議室において、平成二八年度春季中部地区協議会が開催され、二三名の方々に参加されました。

平成二八年度 春季北部地区協議会

『春季労使交渉・協議に臨む経営側の基本姿勢』をテーマに開催



春季中部地区協議会

今回の協議会では、まず中部地区協議会 宮澤政信議長（マルキユー(株)代表取締役会長）より開会挨拶が行われ、続いて、経団連事業サービス 人事賃金センター長

平田 武 氏より『春季労使交渉・協議に臨む経営側の基本姿勢』と題し講演していただきました。（講演概要については、西部地区協議会をご参照ください。）

二月二日(火)マロウドイン熊谷新館五階「飛翔の間」において、平成二八年度春季北部地区協議会が開催され、五名の方が参加され

まず、北部地区協議会 橋元健議長（キヤノン電子(株)取締役副社長）より開会挨拶が行われ、続

春季北部地区協議会



開会挨拶をする橋元健議長

いて、経団連事業サービス 人事賃金センター長 平田 武 氏より『春季労使交渉・協議に臨む経営側の基本姿勢』と題して講演していただきました。（講演概要については、西部地区協議会をご参照ください。）

『春季労使交渉・協議に臨む経営側の基本姿勢』と『経営者が押さえるべき社員の動かし方「社員が動かない三つの理由」』の二テーマで開催

二月二四日(金)川口総合文化センターリリア大会議室において、平成二八年度春季南部地区協議会が開催され、二二名の方が参加されました。

まず講演一として、経団連事業サービス 人事賃金センター長 平田 武 氏より『春季労使交渉・協議に臨む経営側の基本姿勢』と題して講演していただきました。(講演概要については、西部地区協議会をご参照ください。)



講演する橋本喜充氏



春季南部地区協議会

動かない三つの理由』と題してご講演いただきました。

◇講演二の概要

・社員が「動かない」「期待に応えてくれない」理由として、①メンタルブロック(心の盲点、②上司との関係性、③組織風土の壁が挙げられる。人間には、それぞれ考え方や価値観、行動の癖があり、理屈や理想は理解していても、実際の行動に直結

しない。そのため、多くの人が持てる力を発揮しておらず、生産性の低下や機会損失、職場の雰囲気悪化など、企業には多くの「もったいない！」が存在している。

人間の行動には、本人の先天的な個性に加え、育った環境や教育、家族構成などが影響を及ぼす。そのため、社員の行動を促すには、まずエゴグラム等による個性分析を活用し、社員の個性や思考の背景を把握することが重要である。それにより、社員の適性に合わせた業務配置や

動機づけが可能となる。また、上司も自らの個性を分析して自己認識を高めることで、自分の感情をコントロールしながら部下の能力を最大限活かすことができる。

自分や他人をよく知り、それぞれの価値観や判断基準など、本人や組織には見えない障壁(メンタルブロック)を取り除くことで、個人の成長が促されるとともに良好な職場環境が醸成され、組織の生産性向上につながる。

平成二八年度第十二回トップセミナー

「戦略を主体的に実行できる組織をつくるために」『七つの習慣』と『実行の四つの規律』を学ぶ」と題し、フランクリン・コヴィー・ジャパン(株) 取締役副社長 竹村富士徳氏が講演

全世界で販売部数三千万部を記録し、日本でも二百万部を超えるベストセラーとなり、二〇世紀にもっとも影響を与えたビジネス書第一位に輝いている『七つの習慣』をお読みになった方も多いことと思います。

著者であるステイブン・R・コヴィーはご高承のとおり、タイ

ム誌が選ぶ「世界でもっとも影響力のあるアメリカ人二五人」の一人に選ばれ、国際的に高く評価されているリーダーシップ論の権威であり教育者や組織コンサルタントとして活躍されました。

十二月十二日(月)の平成二八年度第十二回トップセミナーは、ステイブン・R・コヴィーの共同創



第十二回トップセミナー



講演を行う竹村富士徳氏

設者で、「七つの習慣」と『実行の四つの規律』に関する研修プログラムを多くの企業で展開しているフランクリン・コヴィー・ジャパン(株) 取締役副社長 竹村富士徳氏を講師としてお迎えし、「戦略を主体的に実行できる組織をつ

くるために『七つの習慣』と『実行の四つの規律』を学ぶ」と題して大宮ソニックスティイ四階市民ホールにて開催し、三八名の方が参加されました。

竹村氏からは、時代の変化とともに、個人の自主性や主体性がより重視される中、組織の状況が一変するような最重要課題に向けて、そこに関わる人々が「行動を変容し、継続性を徹底する」ことの重要性について触れ、それを実行するための『七つの習慣』と『四つの規律』について、ご講演いただきました。

◆講演概要

講演の概要は以下のとおり。
・リーダーの役割とは、組織の方向性を立案する「戦略」と、戦略を確実に遂行する「実行」により結果を出すことにあるが、組織の現状としては、戦略を実行する現場のメンバーが戦略の趣旨や自分の役割・使命を明確に把握しておらず、戦略と実行の間に「実行ギャップ」が生まれている。課題を感じているリーダーが多い。
・七つの習慣とは、個人がセルフリーダーシップを発揮し、人間関係の中で相乗効果を発揮していくためのプロセスで、第一から第三の習慣により依存状態から自立への成長を促し（私的成



講演を行う中島正太氏

功)、第四から第六の習慣で、自立した人間が相互に依存して相乗効果を発揮し、より大きな成果の達成を目指す(公的成功)。これらの習慣を支えて継続的に成長するため、第七の習慣として、自身の肉体や精神の維持が必要となる。

・日常業務や緊急事項に追われる「竜巻」の中で重要な戦略を実行するには、七つの習慣を活かした効果性の高い人格形成により個人がしっかりと大地に根をはり、組織としての幹を鍛えるため、実行を生み出す四つの規律が必要となる。

・これらを継続的に実践することにより、実行が組織文化として根付き、「竜巻」の中にあっても一人一人が効果的かつ主体的に重要戦略を実行することが可能となる。

平成二八年度第十三回トップセミナー

『最高の準備が最高の成果を呼ぶ』ラグビー日本代表 躍進の要因を語る』と題し、ラグビー日本代表アナリスト 中島 正太氏が講演

二〇一五年九月二十日深夜(日本時間)、ラグビー日本代表がワールドカップイングランド大会で、過去優勝二回、世界ランキング三位の南アフリカを三四対三二で撃破しました。また、リオオリンピックの男子七人制ラグビーでも、予選リーグでラグビー強国ニュージーランドを撃破し、準々決勝ではフランスを破り、準決勝で優勝したフィジーに敗れたものの、四位

に入賞しました。
十二月二十日(火)の平成二八年度第十三回トップセミナーでは、ラグビーのワールドカップ、オリンピックともに日本代表のアナリストを務められた 中島 正太氏を講師としてお迎えしました。当日は、大宮ソニックスティイ四階市民ホールにて開催し、三七名の方が参加されました。
中島氏は、熊谷工業高校ラグビー部で主将を務め、筑波大学では副主将として同大初の全国大学選手権八強に貢献。卒業後はアナリストとして社会人のセコムラガッツからキャリアをスタートさせ、二〇一二年からエディター・ジョーンズヘッドコーチ率いる日本代表で情報分析を担当。「世界一準備されたチーム」を目指して、膨大な情報量のデータをコーチ陣と共有し、最善の練習方法を話し合うなど様々な取り組みを重ねた結果、ラグビー日本代表の大躍進に結果しました。

◆講演概要

講演の概要は以下のとおり。
・アナリストの仕事は、対戦相手の試合映像等を分析して情報を収集し、ヘッドコーチに提案して対策を考えるとともに、コーチングとミーティングにより選手に伝えることである。
・映像以外にも、データから相手



第十三回トップセミナー

のプレースタイルや強み・弱み、勝敗の要因等を分析し、勝つための提案を行っている。
・分析を行う上では、対戦チームのフィロソフィー(哲学)や相手が勢いづく要因を知ることが心がけ、それを破るには何が必要なのかを考えている。また、選手自身が対戦チームを分析して相手の特徴を知り、自分が何をすべきかを常に意識することも重要である。
・二〇一二年にヘッドコーチに就任したエディター・ジョーンズは、「Japan Way」という言葉を掲げ、選手が日本代表であることに忠誠心を持ち、世界へ目を向けるマインドセットができる



講演を行う門田隆将氏

平成二八年度第十四回トップセミナー

『リーダーの本義』改めて考えるリーダーの本来あるべき姿』と題し、ノンフィクション作家 門田 隆将氏が講演

近年、三菱自動車や東芝など、名門企業の不祥事が相次いでいます。こうした企業ではリーダーが

保身に走り、自らの使命(本義)を見失い、リーダーという地位に安住していたようにも感じられます。

こうした問題意識を踏まえ、二月二四日(火)の平成二八年度第十四回トップセミナーでは、日本を代表するノンフィクション作家の門田 隆将氏を講師としてお迎えしました。当日は、大宮ソニックスティイ四階市民ホールにて開催し、四四名の方が参加されました。講演で門田氏は、福島原発事故で事態收拾に奔走した吉田昌郎・

強いチーム形成に着手した。

日本代表チームは、フィジカルやラグビー能力では世界に劣るが、準備力では世界一になることを目指し、南アフリカ戦に勝利するための準備をスケジュールリングして最も効果的なタイミングで選手に落とし込んでいった。

その結果、南アフリカ戦の前には選手自らが相手チームを分析する自主性が芽生え、最終局面での勝利にこだわったプレーに

つながった。

予選リーグは対戦相手が予め決まっているため周到な準備をすることができ、日本ラグビーの今後の課題は、予測できない事態(決勝トーナメント)でも力を発揮できる集団になることである。二〇一九年のラグビーワールドカップに向けて経験を重ね、いかなる環境においても自らの能力と可能性を最大限に発揮できる自立した集団を目指して取り組んでいきたい。

第十四回トップセミナー



福島第一原子力発電所所長や、光市母子殺害事件「本村洋さん」はなぜ救われたのか など、ひたすら自らの使命(本義)に従ったリーダーたちがとった「行動」とその時の「心理」を克明に語り、リーダーの本来あるべき姿を熱く論じていただきました。

講演の概要は以下のとおり。

◇講演概要

『福島第一原発「吉田昌郎所長」

「この人となら一緒に死ねる」

・東日本大震災の大津波によって起こった福島原発事故の現場は、「事故」との闘いだけでなく、「官邸」や「東電本店」との闘いの場でもあった。

・吉田所長の、毅然とした態度で

上下関係なく言うべきことを言い、自らの使命に忠実に行動する姿を部下は日頃から見てきた。それは極限状態でも変わらなかつた。

・原子炉を冷却するための海水注入を巡って、現場と官邸・東電本店と意見が対立した時、吉田所長は日本の命を守るため、海水注入中止命令を無視して原子炉の冷却を続けた。東電組織の本義に立ち返り、国民と国家の命を守るといふ本質を見失わない行動であり、行動を共にした現場の部下の冒頭の発言から、信頼関係の深さが伺える。

『光市母子殺害事件「本村洋さんを支えた日高良一工場長」

『君は、社会人たれ』

・妻と生後十一か月の娘を十八歳の少年に殺害されたこの事件は、

少年犯罪であったがゆえに日本の司法の矛盾との闘いを強いられた。九年間に及ぶ闘いの中で、何度も絶望の淵に立った本村さんを本場の意味で支え続けたのが日高工場長だった。

・事件後、司法との闘いに疲れ仕事に対する意味を見失い、辞表を提出した本村さんに対して、日高工場長は、社会に対して責任ある立場での発言を望むと同時に、組織の人間であれば会社としても守ることができるとして冒頭の言葉を告げた。

・その後、本村さんは仕事を通じて社会に関わることで自尊心が回復し、司法の変革を促す行動につながった。本義を全うできる人間に部下を育てていくことも、リーダーの本義といえる。

年末調整・給与計算実務セミナー

『給与計算の流れを把握し、年末調整に備える!』と題し、梅井労務コンサルティング事務所 代表 社会保険労務士 梅井 覚氏が講演

年末調整は年税額の精算をするためのもので、ミス無くスムーズに処理するためには、関係法規の知識や給与計算の仕組みをよく理解しておくことが重要になります。

そこで、十一月二二日(火)の年末調整・給与計算実務セミナーでは、梅井労務コンサルティング事務所 代表 社会保険労務士 梅井 覚氏を講師としてお迎えし、「給与



講義を行う梅井 覚氏

計算の流れを把握し、年末調整に備える！」と題して実施しました。当日は、大宮ソニックシティ六階六〇三会議室にて開催し、三四名の方が参加されました。

梅井氏からは、年末調整を正しくスムーズに行うために必要な給与計算の基礎、社会保険料、源泉徴収の知識や年末調整の進め方、税額の控除などについて解説していただきました。また、様々なケ



年末調整・給与計算実務セミナー



労働法実務対策講座第一講

ースメソッドを用いて、年末調整税額控除の計算シミュレーションを行うなど、演習問題を解きながら具体的な解説を交えて講義が進められました。

平成二八年度労働法実務対策講座第一講

『問題社員』の法的対応と実務対策』と題し、石寄・山中法律事務所 パートナー弁護士 安藤 源太氏が講演

バブル崩壊以降の低成長時代を背景に、いわゆる集団的な労使関係は協調路線が進む一方で、個々の労働者との間の様々なトラブルはむしろ拡大傾向にあります。そ

うしたトラブルの一部が労働委員会や労働審判・裁判所に持ち込まれたり、マスコミに取り上げられたりするなど、対応に苦慮するケースが増えています。

中でも、業務命令無視などの勤務態度不良、他の社員とのチームワーク欠如、職務能力不足、無断遅刻早退・無断欠勤、セクハラ・パワハラなど、トラブルを引き起こす「問題社員」はどの会社にも一定割合いると言われていますが、こうした問題社員を放置しては、職場の雰囲気や生産性の著しい悪化につながってしまいます。したがって、企業としては当該社員に何らかの対処をしなければなりません。どのような場合にどのような人事上の対処をすることができなのか、法的な視点や判例を踏まえた上で実施しなければ、当該社員との間のトラブルが拡大



講演を行う安藤源太氏

し、逆に訴えられるようなことにもなりかねません。

そこで、十二月十九日(月)の労働法実務対策講座では、日本を代表する法律事務所である「石寄・山中法律事務所」のパートナー弁護士である 安藤 源太氏を講師としてお迎えしました。当日は、大

宮ソニックシティ四階市民ホールにて開催し、七一名の方々が参加されました。安藤氏は、問題社員の例として「能力不足社員」、「勤務態度不良社員」、「メンタル社員」、「ハラスメント社員」、「私生活上トラブル社員」を挙げられ、それぞれのケース別に会社が行うべき対処方法や注意点等について、具体的な事例に沿ってわかりやすく解説していただきました。

また、講演終了後には、職員の処分や休職に関する規定の就業規則への記載方法や、専門医の受診指導等多岐にわたる質問が出され、人事労務管理に関する関心の高さが伺えました。

平成二八年度労働法実務対策講座第二講

『定年後再雇用における労働条件設定法務&実務対策セミナー』～「長澤運輸事件 地裁・高裁判決」の解説と企業側の実務対策」と題し、石寄・山中法律事務所 ヴァイスパートナー弁護士 塚越 賢一郎氏が講演

定年退職後に有期契約で再雇用された嘱託社員のトラック運転手について、定年前よりも賃金を引き下げたことは不合理であると、

「労働契約法」二十条違反を認め、地上、正社員との賃金差額の支払いを命じた判決が昨年五月に東京地裁で下されました(長澤運輸事



講演を行う塚越賢一郎氏



件)。しかし同十一月、東京高裁は地裁判決を取り消して労働者側逆転敗訴の判決を言い渡しました。本事件の地裁・高裁判決においては、法的解釈や事実認定については、法律家や実務家の間での様々な見

労働法実務対策講座第二講

解や異論もあり、現在最高裁へ上告されていることから、今後の最高裁での審理の行方を含めて社会的な注目が集まっています。

こうした状況を踏まえ、二月六日(月)の平成二八年度労働法実務対策講座第二講では、労働問題を専門とした日本を代表する法律事務所である「石寄・山中法律事務所」のヴァイスパートナー弁護士 塚越賢一郎氏を講師としてお迎えしました。当日は、大宮ソニックシティ四階市民ホールにて開催し、

平成二八年度第四回特別セミナー

『成熟市場における効果的な与信管理方法』 「企業の見分け方、見つけ方」をテーマ に開催

一月十九日(木)の平成二八年度第四回特別セミナーは、株式会社帝国データバンク 大宮支店 支店長 上西 伴浩氏を講師としてお迎えしました。当日は、大宮ソニックシティ四階市民ホールにて開催し、四十名の方にご参加いただきました。

講演では、まず、埼玉県内の倒産動向データを基に埼玉県の企業を取り巻く状況について説明後、与信管理の流れや取引先の変化をつかむポイントについて解説していただきました。また、企業の見

二十名の方にご参加いただきました。

塚越氏からは、長澤運輸事件の地裁・高裁判決の解説や、本事件を踏まえた定年後再雇用制度における労働条件設定の考え方等について、判例や関連法のポイントを交えて解説していただきました。

講演終了後には、定年後再雇用制度の労働条件設定時における労使間協議の方法や重要性等に関する質問が出され、関心の高さが伺えました。



講演を行う上西伴浩氏

分け方・見つけ方として、企業情報を活用した攻めと守りの分析事例について、信用調査報告書の読



第四回特別セミナー

み方等も含めて紹介されました。

講演終了後には、与信管理に携わる営業マンのモチベーションの上げ方や、帝国データバンクでの企業の評価方法等に関する質問が出され、参加者の関心の高さが伺えました。

講演概要は以下のとおり。

◇講演概要

・与信行為とは、①売手が②買い手に対して③納品から代金回収までの間に行う④信用行為(相手に信用を与えること)で、与信管理とは、売掛債権の回収確実化を目的とした組織的な企業活動である。

・与信管理の目的としては、①貸し倒れ防止と貸倒損失の軽減化
②優良な販売地盤の形成③財務基盤の充実④企業信用の安定と高揚の四つが挙げられ、安心して取引を行う上でも、様々な企業データから取引を判断することが重要である。

・また、取引先の変化は様々な場面で現れており、倒産などの緊急事態に陥る場合には必ず事前に何らかのシグナルが発せられている。取引先の経営上の変化や従業員の変化等、常にアンテナを張り、起きた変化に対して様々な可能性を検討して先手を打つことで、危険を回避するとともに自社の経営効率も高まる。

・新規顧客開拓で最も重要なことは、相手に「聞く耳」を持つってもらうことで、アプローチするにあたっては、事前に相手のビジネスモデルをいかに掴むかがポイントである。その際、ターゲット企業の役員や取引先等の基礎的なデータに加え、代表者の出身地や出身校、経営課題に至るまで幅広く把握して会話の糸口を掴むことで、相手の懐に入り込める確率が高まるため、効果的な企業情報の活用が求められる。

平成二八年度第四回CSR委員会

『JOC・味の素ナショナルトレーニングセンター視察会』開催

昨年九月二二日、埼玉県（公財）日本オリンピック委員会（JOC）

と本会の共催により、企業への就職を希望するトップアスリートと、優秀な人材確保を目指す企業とのマッチングの場となる「アスナビ」説明会を埼玉県で初めて開催しました。東京オリンピック出場を目指すアスリートの素晴らしいプレゼンテーションや企業のアスリート採用事例の発表が行われ、企業のアスリート支援は単なるCSR活動ではなく、社内の一体感を生

む素晴らしい活動であることに気づかされました。

一月十二日（木）の平成二八年度第四回CSR委員会では、こうした企業のアスリート支援活動の輪を広げることを目的として、味の素ナショナルトレーニングセンター視察会を開催し、八名の方にご参加いただきました。

味の素ナショナルトレーニングセンターは、競技別の専用練習場である「屋内トレーニングセンター」、「陸上トレーニング場」、「屋

内テニスコート」及び宿泊施設の「アスリート・ヴィレッジ」から構成されており、競技者が同一拠点において集中的・継続的に強化活動を行うことができる日本トップレベル競技者の国際競技力の総合的な向上を図るためのトレーニング施設です。

当日は、（公財）日本オリンピック委員会（JOC）星野一朗理事からご挨拶をいただいた後、勝つための身体をつくる栄養管理食堂（通称「勝ち飯食堂」）や、選手が使用する各種競技の専用練習場の見学を行いました。続いて、将来のスポーツ大国をめざすナショナルトレーニングセンターの狙いと将来のアスリート育成に向け

て」と題し、JOC強化部長代理 笠原 健司氏からご講演をいただきました。

講演の概要は以下のとおり。

◇講演概要

・リオオリンピックで獲得した十二個の金メダルは、全て当センターに練習施設を有する競技のもので、トップスポーツの練習環境の重要性を感じている。

・また、トップアスリートだけでなくジュニア育成にも力を入れており、全国二十地域において、主に小学生を対象とした「タレント発掘・育成プログラム」を実施している。適性を有する潜在能力の高い選手を見出し、優れたコーチから質の高い育成プ



複数メーカーの台が設置された卓球場



天井が高い体操競技練習場



レスリング練習場



約1000畳の広さの柔道場



一品ずつ栄養分析とカロリー計算がされた「勝ち飯食堂」



第四回CSR委員会



挨拶する JOC 星野一朗理事



講演する JOC 笠原健司氏

プログラムを提供することにより、将来性豊かな選手のパフォーマンスを最大限引き上げることを目的としている。

併せて、適切な指導方法を身につけた指導者の養成も重要で、オリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍できる選手を育成・指導するための高度な専

門的能力を習得するプログラムを設けている。

「アスナビ」では、まだまだサポートを必要としている選手は多い。世界を相手に真剣に競技に打ち込む選手の姿は大きな刺激となり、会社全体の活性化にもつながる。是非、活用していただきたい。

平成二八年度第五回CSR委員会

『特別支援教育の現場視察と意見交換会』 県立上尾特別支援学校』を開催

第五回CSR委員会は、特別支援教育の現場視察と意見交換を目的に、二月一日(水)、県立上尾特別支援学校を訪問し、教育現場の視察並びに教員・生徒との意見交換会を開催いたしました。

上尾特別支援学校は知的障害がある児童生徒173名(小学部55

名、中学部28名、高等部90名)が

通い、「自立に向けた確かな力」がわかる・できる・つながる」を学校教育目標に掲げ、キャリア教育を推進し豊かに生きる力を育てる学校として、地域と一体となって進路実現に取り組んできた伝統ある特別支援学校です。

挨拶する上尾特別支援学校長
野口馨氏



当日は、四名の会員に参加していただき、まず学校概要の説明や参加者紹介を行い、その後各学年の授業や作業学習の様子、学校施設の見学を行いました。

作業学習の見学では、窯業班、布工芸班、紙工芸班、革工芸班、木工班、農園芸班が班別に分かれて作業する様子をそれぞれ見学。

校内見学後は、進路状況説明や生徒の発表、意見交換が行われました。児童生徒が高い集中力を持って、作業に打ち込んでいる様子や、それを全力で支える学校側のサポート体制などを視察す



ることによって、参加者一同、特別支援教育に関する理解を深める

とともに、障害者雇用の重要性を再認識することができました。

働く女性応援講座

平成二十八年労働女性応援講座 (第十三講～第十八講) 開催

◇各講開催概要

- ・第十三講 (十二月八日) 二八名
「仕事の基礎力」能勢みゆき氏
- ・第十四講 (十二月二一日) 五四名
「対人コミュニケーション力向上」
河崎理恵子氏
- ・第十五講 (一月十八日) 十四名
「営業コミュニケーション」
太田彩子氏
- ・第十六講 (一月二六日) 五六名
「タイムマネジメント」
河崎理恵子氏
- ・第十七講 (二月八日) 十五名
「アサーティブ・コミュニケーション」
河崎理恵子氏
- ・第十八講 (二月十八日) 十四名
「キャリアデザイン」
能勢みゆき氏



働く女性応援講座 (第14講)
「対人コミュニケーション力向上」

埼玉県女性キャリアアセンダーと本会との共催で、平成二十八年労働女性応援講座を With you さいたまにおいて開催しました。各講ともグループワークを中心に講義が進められ、参加者同士の積極的な意見交換により、普段の仕事では得られない様々な気づきを得られた様子でした。

平成二十八年労働女性応援講座

『管理職候補者研修(後期Ⅰ・Ⅱ)』開催

一月二十日(金)、二月三日(木)埼玉県女性キャリアアセンダーと本会

との共催で、平成二十八年労働女性応援講座を With you さいたま

において開催し、合計十三名にご参加いただきました。

今回は『管理職候補者研修(後期Ⅰ・Ⅱ)』として、前期講座に引き続き、キャリアアコンサルタント 能勢みゆき氏にご登壇いただきました。

一日目は「管理職候補者の上司」を対象に、女性の特徴や特性を理解して女性社員の能力を引き出し、将来の女性管理職を効果的に育成するためのポイントや接し方の習得、二日目は「管理職候補者」を対象に、女性管理職候補者としての強みや課題などの現状を把握し、女性管理職になる不安や課題を解消してリーダーに相応しいあり方を学ぶことを目的として実施しました。

講義では、上司の立場の参加者



働く女性応援講座
「管理職候補者研修(後期Ⅰ・Ⅱ)」

に対して、女性管理職の育成には、管理職候補者であることを、上司から部下へ期待を込めて伝えることが動機付けのためにも必要であること、管理職候補の参加者に対しては、

管理職としての自信を持つためにも、担当業務以外にも視野を広げ、仕事の幅を広げることの重要性等についてアドバイスされました。

平成二十八年労働女性応援講座

『出前セミナー(熊谷・春日部・加須)』開催

埼玉県女性キャリアアセンダーと本会との共催で、一月十一日(水)熊谷市立商工会館、二月一日(水)春日部市視聴覚センター、二日(木)加須市商工会館において平成二十八年労働女性応援講座を開催し、合計三三名にご参加いただきました。通常の講座は、さいたま市にある「With you さいたま」での開催となりますが、今年度は県内各地で出前セミナーを実施しています。

熊谷・春日部会場では『ワークライフ・バランス』、加須会場では『対人コミュニケーション力向上』をテーマに、キャリアアコンサルタント 河崎理恵子氏を講師としてお招きして開催しました。

『ワークライフ・バランス』では、自分の仕事や時間の使い方について振り返り、これからの人生を充実させるための実践方法について、『対人コミュニケーション力向上』では、人間関係を築くだけでなく、効率よく仕事を進めるためのヒントとなるコミュニケーションスキルを体験的に学び、自身が望む生活バランス(時間配分)を実現するための手法や気づきを得られた様子でした。

『ワークライフ・バランス』では、自分の仕事や時間の使い方について振り返り、これからの人生を充実させるための実践



働く女性応援講座
「出前セミナー(加須市商工会館)」

企業経営動向調査（2016年度第4回〈17年1月調査〉）結果

調査概要

○調査対象	550社	○資本金別	
有効回答数	186社	●5000万円以下	93社
回収率	33.8%	●5000万円超～1億円以下	45社
○業種内訳		●1億円超～3億円以下	10社
●内製造業	85社	●3億円超	38社
●内非製造業	101社		

企業経営動向調査結果

I. 景況判断 (DI=「上昇」-「下降」)

1. 国内景気 DI		16年10月	17年1月	○最近の国内景気 DI は、製造業・非製造業とも「+10」以上改善している。 ○先行きについては、16年10月比で製造業「+15」、非製造業「+25」の改善を見込んでいる。
最近	全社	-12	1	
	内製造業	-15	-5	
	内非製造業	-10	6	
先行き (6カ月先)	全社	-21	-1	
	内製造業	-24	-9	
	内非製造業	-18	7	

1. 業界の景気 DI		16年10月	17年1月	○最近の業界景気 DI は、16年10月比で製造業は「+4」の小幅改善、非製造業は横這いとなっている。 ○先行きについては、16年10月比で製造業は「-5」の悪化、非製造業は「+5」の改善を見込んでいる。
最近	全社	-11	-9	
	内製造業	-17	-13	
	内非製造業	-6	-6	
先行き (6カ月先)	全社	-11	-11	
	内製造業	-15	-20	
	内非製造業	-8	-3	

3. 自社の業況 DI		16年10月	17年1月	○最近の自社業況 DI は、16年10月比で製造業・非製造業とも横這いになっている。 ○先行きについては、16年10月比で製造業「+2」、非製造業「+3」の改善を見込んでいる。
最近	全社	4	4	
	内製造業	0	0	
	内非製造業	7	7	
先行き (6カ月先)	全社	-1	2	
	内製造業	-4	-2	
	内非製造業	2	5	

II-1. 経営動向（売上高）

（注）16/10-12月期、17/1-3月期の上段の（ ）内の数値は16年10月調査時の見通し

1. 売上高 DI （対前四半期比）	実 績		見 通 し		
	16/7-9	10-12	17/1-3	17/4-6	
全 社	6	(20) 31	(3) -3	-8	<p>○10-12月期の売上高 DI は、7-9月期比で製造業「+25」、非製造業「+24」と大幅に改善した。</p> <p>○今後の見通しについては、製造業・非製造業とも厳しい見方をしており、17/1-3期は大幅な悪化、17/4-6期は概ね横這いと見込んでいる。</p>
内 製 造 業	-3	(20) 22	(-4) -7	-5	
内 非 製 造 業	14	(20) 38	(9) 0	-10	

2. 経常利益 DI （対前四半期比）	実 績		見 通 し		
	16/7-9	10-12	17/1-3	17/4-6	
全 社	6	(20) 29	(1) 2	-14	<p>○10-12月期の経常利益 DI は、7-9月期比で製造業「+27」、非製造業「+20」と大幅に改善した。</p> <p>○今後の見通しについては、製造業・非製造業とも厳しい見方をしており、17/1-3期・17/4-6期連続で悪化すると見込んでいる。</p>
内 製 造 業	-1	(23) 26	(-3) 2	-13	
内 非 製 造 業	12	(17) 32	(3) 2	-14	

III. その他

1. 製品の在庫水準 DI （「過大」-「不足」）		16年10月	17年1月	
最 近	全 社	9	-2	<p>○最近の製品在庫水準 DI は、16年10月比で製造業「-14」、非製造業「-6」と不足感が強まっている。</p> <p>○先行きについては、16年10月比で製造業・非製造業とも概ね横這いながら、非製造業の不足感は弱まると見込んでいる。</p>
	内 製 造 業	13	-1	
	内 非 製 造 業	4	-2	
先 行 き （6カ月前）	全 社	-1	0	
	内 製 造 業	1	2	
	内 非 製 造 業	-4	-2	

2. 生産・営業用設備 DI （「過剰」-「不足」）		16年10月	17年1月	
最 近	全 社	-5	-4	<p>○最近の生産・営業用設備 DI は、16年10月比で製造業・非製造業とも概ね横這いながら、製造業の不足感は弱まっている。</p> <p>○先行きについては、16年10月比で製造業・非製造業とも概ね横這いながら、製造業は「+3」の不足感改善、非製造業は「-2」の不足感悪化を見込んでいる。</p>
	内 製 造 業	-8	-4	
	内 非 製 造 業	-3	-4	
先 行 き （6カ月前）	全 社	-8	-8	
	内 製 造 業	-11	-8	
	内 非 製 造 業	-5	-7	

3. 雇用人員 DI (「過剰」 - 「不足」)		16年10月	17年1月	<p>○最近の雇用人員 DI は、16年10月比で製造業、非製造業とも不足感が高まっており、製造業「-26」・非製造業「-43」となっている。</p> <p>○先行きについては、16年10月比で製造業・非製造業とも概ね横ばいながら、人材確保の厳しい状況が今後も続くと思込んでいる。</p>
最 近	全 社	-29	-35	
	内 製 造 業	-21	-26	
	内非製造業	-36	-43	
先 行 き (6カ月先)	全 社	-34	-37	
	内 製 造 業	-24	-26	
	内非製造業	-43	-47	

4. 資金繰り DI (「楽」 - 「厳しい」)		16年10月	17年1月	<p>○最近の資金繰り DI は、16年10月比で製造業、非製造業とも概ね横ばいであり、全体的に資金繰り繁忙感はでていない。</p> <p>○先行き DI についても、全体として資金繰り繁忙感はみられないが、製造業で16年10月比「-8」の悪化を見込んでいる。</p>
最 近	全 社	15	14	
	内 製 造 業	12	13	
	内非製造業	17	14	
先 行 き (6カ月先)	全 社	14	9	
	内 製 造 業	13	5	
	内非製造業	14	12	

5. 販売価格 DI (「上昇」 - 「下落」)		16年10月	17年1月	<p>○最近の販売価格 DI は、16年10月比で製造業・非製造業とも概ね横這いとなっている。</p> <p>○先行きについては、16年10月比で製造業は「+3」の改善、非製造業は「-9」の悪化を見込んでいる。</p>
最 近	全 社	-3	-3	
	内 製 造 業	-8	-9	
	内非製造業	1	3	
先 行 き	全 社	-6	-9	
	内 製 造 業	-16	-13	
	内非製造業	4	-5	

6. 仕入価格 DI (「上昇」 - 「下落」)		16年10月	17年1月	<p>○最近の仕入価格 DI は、16年10月比で製造業が「+6」と上昇しており、先行きについても16年10月比で「+14」の上昇を見込んでいる。</p> <p>○非製造業は最近・先行きとも、16年10月比で概ね横這いとなっている。</p>
最 近	全 社	12	15	
	内 製 造 業	11	17	
	内非製造業	13	14	
先 行 き	全 社	18	24	
	内 製 造 業	21	35	
	内非製造業	16	13	

埼玉大学研究者との出会いの広場

シリーズ
第99回

今回の内容について、ご関心・興味をお持ちの方は、下記にご連絡下さい。
 埼経協 専務理事 根岸 茂文 ☎048-647-4100
 FAX048-641-0924

研究の内容 産業への展開



子どもの心身の健康な育ちを支援する環境づくり

埼玉大学 教育学部 生活創造講座 吉川 はる奈 教授

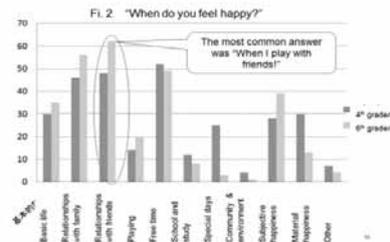
大学学部時代に所属研究室と都立病院小児科の大型研究プロジェクトに参加したことがきっかけで、赤ちゃんや子どものもつ不思議な力に魅せられ、彼らの心身の健康な育ちを支援することをめざし、現在に至っています。子どもをキーワードに、さまざまな領域の方々と出会い、学びあい、教えあい、刺激しあい、協働で、子どもの物的環境、人的環境がよりよくなるように取り組んでいます。

現在教育学部に所属し、子どもの発達や遊びに関心あるゼミ生とともに研究と臨床をしています。進行中のプロジェクトをいくつか紹介しましょう。1つは、子どもの手指動作の発達研究プロジェクトです。子どもの生活空間はとて便利に変化し、子どもの手指の熟達に少なからず影響があると感じています。たとえば、ドアノブも、水道蛇口も、靴紐も、デザインが豊かに工夫されて手指に負担なく使えるようになった反面、子どもの手指動作や技能に求められる部分が少なくなりました。昨今の子どもの食具をはじめ身の回りの道具の手指使いについて調査し、子どもの遊びや道具に必要な視点を提案できることで、子どもが育つ環境を

より質の高いものにと考えています。またもう1つ、子育て支援の充実が国内どの地域でも叫ばれるようになったことはとても嬉しいことですが、海外の先進事例調査から、国内事例と比較し、そこからみえる国内事例に必要な視点を考察するなど国際比較調査をしています。

子どもの健康な育ちを支える環境として、人的環境のバックアップも課題です。教員養成にかかわる立場として学生を巻き込みながらすすめています。

最後に…。図は小学4年生と6年生にどんなときが幸せかたずねた結果です。もちろん友達と遊ぶときです。すべての子どもが幸せな社会になるよう研究成果を還元していくことが研究者としての使命と考えています。

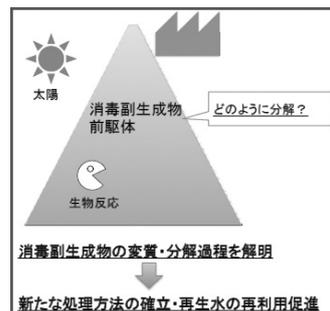


持続可能な水循環型社会に向けて

埼玉大学 大学院理工学研究科 環境科学・社会基盤部門 環境科学領域 三小田 憲 史 助教

私は普段、水環境というテーマで研究を行っています。家庭から出た生活排水は、多くの場合、下水処理場へ導水されて処理を受けていることは多くの方がご存じだと思います。下水処理場で処理された水は、どこへ行くのでしょうか。答えは下水処理場の立地条件によって異なり、内陸部では河川等に再放流されるほか、一部では洗浄用水として再利用されています。この下水処理水を色々な方面にもっと活用しようという動きが現在進んでいます。その理由の一つとして、最近では気候変動等による降水量の不安定化が懸念されており、安定した流量が見込める下水処理水が都市における貴重な水資源となり得るからです。一方で、下水処理水の再利用を今後さらに促進していくには考慮しなければいけないこともあります。一つは病原微生物による感染症の問題です。これを防ぐには塩素を中心とした消毒処理が有効なのですが、その際に消毒副生成物と呼ばれる有害な物質が生成することがあります。これは、水中に含まれる有機物と塩素の化学反応で生じるものです。誤解が生じないように補足しますと、塩素消毒の必要性やそれに伴う副生成物の問題は下

水処理水に限った話ではなく、通常の表流水にもそのまま当てはまります。また、塩素処理で得られる消毒効果(ベネフィット)は、消毒副生成物によるリスクを大きく上回るという考えが環境工学分野では基本になっています。しかし、十分な消毒効果が得られつつ消毒副生成物が低減できるならそれに越したことはなく、そのための研究は下水処理水の利活用拡大や持続可能な水循環社会の形成にも貢献できます。そこで私は、下水処理水が流れる都市河川に消毒副生成物の原因となる物質が含まれるかどうかや、含まれていた場合にはそれらの性質や環境中でのふるまいを調べており、研究を通じて消毒副生成物を上手にコントロールできる方法を提案していきたいと考えています。



略歴
 吉川 はる奈
 (よしかわ はるな)
 1988年お茶の水女子大学卒業、1990年同大学大学院家政学研究科児童学専攻修了
 お茶の水女子大学助手等を経て2003年より埼玉大学教育学部助教授、2013年より同大学教授。専門は生活空間での子どもの発達と子育て支援。

排水の評価・管理手法の提案、消毒副生成物の制御

略歴
 三小田 憲史
 (さんこだ けんし)
 2013年 熊本県立大学大学院環境共生学研究科修了博士(環境共生学)取得
 日本学術振興会特別研究員を経て、2015年3月から現職

「ものづくり大学」へようこそ

連載
第80回

今回の内容について、ご関心・興味をお持ちの方は、下記にご連絡下さい。
埼経協 専務理事 根岸 茂文 ☎048-647-4100
FAX 048-641-0924



世界遺産の休暇小屋を体感しませんか

建設学科 藤原 成 曉 教授

昨年の7月7日、近代建築の巨匠の一人であるル・コルビュジェの17の建築が世界文化遺産に登録されました。その登録作品のうちの一つは、東京上野にある国立西洋美術館です。都内で初めての世界文化遺産でもあります。

我が国に存在する彼の作品は唯一これのみになりますが、本学のキャンパス内には今回指定された、終の棲家と呼ばれている「カップ・マルタンの休暇小屋」の1/1の原寸レプリカがあります。

今から遡ること6年前の2011年、現地にて実測調査を行い学生諸君の手によって完成したもので、本学の建設学科と製造学科の協同によりビス一本、家具金物から内外装に至るまで精緻につくられています。建築はその置かれている立地条件との関係が重要であることは勿論です。現地へ行くと、この小さな小屋がその環境（海と山）と一体不二の関係にあることが理解できます。一方、残念ながら現地では小屋内部の見学時間が限られるだけでなく、自分の手で建具を開閉したり、家具に触れた

りすることが出来ません。本学には眼前の地中海も背後の山も、ヴァナキュラーなロク・ブリュヌ村もありませんが、何よりも嬉しいのは、内部空間を実際に手に触れてじっくり味わうことができることです。

なぜ、このちっぽけで粗末な休暇小屋が世界遺産なのか、何故コルビュジェは終の棲家として終生この小屋を愛していたのか、光の豊かさ、居場所の有り様、モデュロール（黄金比を使った身体寸法）などを是非体感してみませんか。



アトリエと小屋



ロク・ブリュヌ村

藤原 成 曉（ふじわら なりあき）教授、武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業、一級建築士、インテリアプランナー、一級建築施工管理技士。鬼頭梓建築設計事務所などを経て東京に設計事務所設立。2006年4月からものづくり大学助教授、現在教授、建設学科長。日本建築学会会員、日本インテリア学会会員、日本建築家協会会員、東京建築士会会員。著書「歩く・見る・描く・デザインする—スケッチで脳を触発しよう—」（彰国社）。（連絡先：048-564-3850/fujiwara@iot.ac.jp）



実践で役立つ英語コミュニケーション力育成

製造学科 土井 香乙里 講師

大学院での研究開始当初は、「英語学」を専門としてことばの研究をしていました。英語の歴史や仕組みを学び、特に「ことば」を「文化」「社会」という観点から包括的に分析し、コミュニケーション方法の比較を行ってきました。しかし10年前から大学の授業で英語科目を担当するようになり、研究内容を実際の英語教育に役立てられることが一番必要であると考えようになり、「応用言語学」「英語教育」分野の研究を行うようになりました。

本学の学生たちも、将来企業でさまざまな国出身の外国人の同僚とコミュニケーションを取る必要が出てくると思われます。一昔前であれば、正しい発音、ネイティブスピーカーのように正確な文法できれいな発音で話せるようになるには、との目標を持って英語を学ぶ人も多くそれが当たり前でしたが、同じ英

語も多様化し、英語のネイティブ（アメリカ人やイギリス人）と話すだけのものではなくなりました。つまり、英語としての正しさを重視するのではなく、人と「英語を使って」コミュニケーションを取る場合にどのようにしたらよいかを身につけることが、より必要な時代になってきました。英語教育分野でも「English as a lingua franca（リングフランカとしての英語）」の研究も進み始め、私自信も少し関わっているのですが、どのように人とコミュニケーションをうまくとるか、英語が母語ではない人と仕事上どのように意思疎通するかが重要であると思います。学生たちにも、英語の授業を受ける時には「英語の知識」を身につけるだけでなく、「英語を使って」自分の考えを伝えること、積極的にコミュニケーションを取る姿勢、また異文化について理解する心を学んでほしいと思います。

土井 香乙里（どい かおり）講師 早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程。早稲田大学人間科学学術院人間情報科学科助手、同研究センター客員講師、東京電機大学理工学部（EEP）インストラクターを経て、2010年9月から、ものづくり大学講師。社会言語学・英語教育。（連絡先：048-564-3844/k_doi@iot.ac.jp）

里見菊雄氏、中村隆俊氏、 林香与子氏が洪沢栄一賞を受賞 （第十五回洪沢栄一賞表彰式開催）

二月十四日(火)、ソニックスティ

ビル国際会議室において、埼玉県出身の実業家、洪沢栄一の精神を受け継ぐ全国の企業経営者に贈られる「第十五回洪沢栄一賞」の表彰式が開催され、日本パーカライジング株式会社（東京都中央区）取締役名誉会長 里見菊雄氏、戸田中央医科グループ（埼玉県戸田市）会長 中村隆俊氏、株式会社マルハ物産（徳島県板野郡松茂町）代表取締役会長 林香与子氏の三氏が受賞した。

表彰は、洪沢栄一賞選考委員長の

の利根忠博本会名誉会長の講評の後、上田清司埼玉県知事から表彰状と記念品が贈呈された。そして洪沢栄一記念財団と洪沢栄一の生誕地深谷市からもそれぞれ記念品が贈呈された。

受賞理由は次のとおり。

■里見菊雄氏（日本パーカライジング株式会社取締役名誉会長）

◇会社概要

金属表面処理並びにその関連事業。一九二八年創業、従業員数三八八六名（単体七九六名）。

◇優れた経営面

・創業以来、限られた地球上の資源を有効に保護するとの創業者の理念を守り、マーケット・シェアNo.1の金属表面処理を中心に、国内外に子会社四三社、関連会社十二社を有し、連結売上高は一〇九〇億円超。

・一九六五年の台湾における中日金属工業設立に中心となって尽力、その後も積極的に海外事業を展開。

◇地域及び社会貢献面

・一九五六年に設立された（公財）里見奨学会の理事長として、「故郷大分の若者の学業の志を支援したい」との創業者の意思を受け継ぎ、経済的に恵まれない学生への奨学金給付の他、大分県竹田市の小・中・高校への図書購入資金の助成、表面処理関係の研究団体への学術助成金の支給を実施。

■中村隆俊氏（戸田中央医科グループ会長）

◇会社概要

医療・介護経営。一九六二年創業、従業員数一三三九一名。

◇優れた経営面

・創業以来、一都四県に一一四か所の関連事業所を展開する売上高約一〇〇〇億円に上る国内最大級の医療グループに成長。

・治す医療から治し支える医療へと発展させ、さらに、地域包括ケアで求められる医療・介護を提供し、トータルヘルスケアネットワークを形成。

・プレストケアセンター、腎センター、心臓血管センター、全国初の嗜好品外来の開設など、特徴のある専門科を多く保有するとともに、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の埼玉県内初の導入など最新鋭機器による医療を推進。

◇地域及び社会貢献面

・個人で青少年育成のための基金の設立を目的に、多方面への多額の寄付を実施。

・二〇〇七年から戸田市と共同で「ピンクリボンウォークIN戸田市」を開催。当初五%であった乳がん検診率を五二・七%にまで引上げた。

・一九七四年から継続している献血活動への貢献や、スポーツ振興へも尽力。

■林香与子氏（株式会社マルハ物産代表取締役会長）

◇会社概要

レンコン加工品製造業。一九五八年創業、従業員数五六名。

◇優れた経営面

・レンコン加工業界を牽引してきたバイオニア企業。

・一九七八年中国からのレンコン輸入開始。輸入量は現在七八〇〇tを超え、輸入初年度の約一五六倍。

・二〇〇三年に（有）マルハファームを設立、徳島県の休耕田を借受け、レンコン栽培を開始。耕作放棄地の減少・地域農業の振興に貢献。

◇地域及び社会貢献面

・徳島県内の女性社長の先駆けとして女性の起業・経営を支援。

・障害者を積極的に雇用（障害者雇用率十八%）。障害者施設か

らのインターンシップや体験学習等を実施。

・徳島県経営者協会初の女性副会長として、徳島県の企業発展・地方産業経済の興隆に寄与。（一社）日本物産協会副会長・中四国支部長として、日本の中食・惣菜事業の発展に寄与。



講評を述べる
利根忠博本会名誉会長



主催者挨拶をする
上田清司埼玉県知事



林香与子氏（右）



中村隆俊氏（右から2人目）



里見菊雄氏（右）

平成二八年度ものづくり大学特別公開講座

『デジタルファブリケーション—新国立競技場から未来のものづくりに向けて—』と題し、建築家・東京大学教授 隈 研吾氏が講演

二月二日(水)、ものづくり大学と本会が共催し、埼玉県、埼玉県教育委員会後援の「平成二八年度ものづくり大学特別公開講座」がパレスホテル大宮で開催され、高校生を含む約三三〇名の方々が参加されました。この講座は、ものづくり大学と本会が地域社会への貢献活動として開催しているもの

で、今回で十三回目の開催となります。まず、

開講にあたり、まず、ものづくり大学 長谷川真一理事長と、本会上條正仁会長の挨拶が行われ、その後、「デジタルファブリケーション—新国立競技場から未来のものづくりに向けて—」と題して、建築家・東京大学教授 隈 研吾氏による講演が行われました。



平成二八年度ものづくり大学特別公開講座



主催者挨拶をする
本会上條正仁会長



主催者挨拶をする長谷川真一
ものづくり大学理事長

講演において隈氏は、建築家を志したきっかけや、

新国立競技場の設計にあたり大切にしていること、今の時代に相応しい建築など、これまでに設計された数々の建築物の解説と、それに基づいたエピソードについてお話しいただきました。

講演終了後には、参加した高校生からの質問に対し、「今から様々な建築を見て、建物の構造や材質、それらがもたらす効果などについて友人らと意見を交わし、建築に対する見識を深めてほしい。」とメールを送られました。

講演概要
一、建築家を志した人生の転機
一九六四年の東京オリンピック開催に備えて建設された国立代々木競技場を十歳で初めて見たとき、建築の世界に魅了された。当時は

今と違い、コンクリートや鉄骨が中心の工業化社会で、効率よく強度のある同じような建物を造るのが主流であった。そんな中、屋根全体が吊り下げられた内部に柱を持たない珍しい構造の建物があり、技術に裏打ちされた凄さがあり世界的にも評価が高かった。

二、新国立競技場の設計
森の中の建物であるため、環境にうまく溶け込むよう、できるだけ高さ

を抑える設計に挑戦した。また、法隆寺五重塔に見られるように、多くの観客の目に触れる軒裏に沢山の木を使用して日本の木の文化を演出するとともに、木材を使用することによる屋根の軽量化により建物全体の負担が軽減された。これらの設計は、コンピュータを使って図面を描き、様々なシミュレーションを行いながら最適化しており、現代の設計者にはコンピュータの技術も求められている。

現在では、木の不燃化や防腐化の技術が進化しており、メンテナンスコストを抑えることができる。また、リサイクル技術の進化により誕生した様々な建築材料の使用や、環境技術を駆使し、太陽光パネルの電力により雨水を循環して小川の再生を計画するなど、新国立競技場を通じて日本の技術を世界にアピールしたい。

三、これからの建築
これまで、国内外を問わず様々なプロジェクトで今の時代に相応しい建築を設計してきた。日本の技術を駆使するとともに、地元の人材を活用し、古くから残る伝統を取り入れて地域に溶け込む空間を創り出してきた。



講演を行う 隈 研吾氏

海外での経験から、日本人の几帳面さを痛感しており、日本で「ものづくり」を勉強すれば世界に通用する技術者になれると思っている。

二十世紀はコンクリートと鉄を用いて世界中が同じような建物の造り方をしていた。これからの時代は、それぞれの地域の歴史や伝統を引き継いで、デジタルファブリケーションをはじめとするコンピュータの力を最大限活用し、単に昔の技術を使用するのではなく、今の技術と組み合わせることで新しい個性を創り出せる多様な楽しい時代がきている。



参加した高校生からも積極的に質問が出された

企業経営者と生徒・保護者・教員による四者面談会開催

埼玉県教育委員会主催による四

者面談会が一月二十二日(日)、熊谷文化創造館さくらめいとで開催された。本会推薦の会員企業経営者五名(別記)と学校側からは十五組、四十五名が参加した。この面談会は平成十五年より実施しており今年度で通算十四年目となる。

この四者面談会では高校生が企業経営者から企業や社会が求める人材像や企業人になるための心構え、学生時代になすべき事などについてアドバイスを受けることで自分を見つめ直し進路選択能力を向上させると共に、生徒・保護者



面談の様子



面談会場の様子



経営者からの質問に答える生徒

「自分にとってよく考える時間をもつことができた」「自分にとってどのような仕事ができるのか、またこれから求められるようになっていくものはなんであるかがよく分かりました。自身の進路と面談の内容がリンクする部分が多く安心した」等の感想が見られた。社会が求める人材とは、興味関心と意欲のある者だと知り、どのような活動も気持ちよく考え方が変えることができることを理解したことが伺えた。企業経営者から進路選択における俯瞰的な立場で、価値観を変える具体的な示唆をもらえたようである。また、保護者からは「親子で悩んでいた日々に戻ってほしい言葉は胸に刻まれました」「経営者の方の話はとても楽しくとても心に響くものでした。一つひとつの言葉が重く、子どもの心にいま何が大切なのか響いていたと思います」「子供だけでなく自分自身にも大変参考になる内容で参加できて本当に良かった」。先生方からは「経営者の考え方を直接聞く機会は決して学校では学べない大変貴重な機会であり、学校における進路指導にも大変参考となりました」「生徒の顔

の将来についてよく考える時間をもつことができた」「自分にとってどのような仕事ができるのか、またこれから求められるようになっていくものはなんであるかがよく分かりました。自身の進路と面談の内容がリンクする部分が多く安心した」等の感想が見られた。社会が求める人材とは、興味関心と意欲のある者だと知り、どのような活動も気持ちよく考え方が変えることができることを理解したことが伺えた。企業経営者から進路選択における俯瞰的な立場で、価値観を変える具体的な示唆をもらえたようである。また、保護者からは「親子で悩んでいた日々に戻ってほしい言葉は胸に刻まれました」「経営者の方の話はとても楽しくとても心に響くものでした。一つひとつの言葉が重く、子どもの心にいま何が大切なのか響いていたと思います」「子供だけでなく自分自身にも大変参考になる内容で参加できて本当に良かった」。先生方からは「経営者の考え方を直接聞く機会は決して学校では学べない大変貴重な機会であり、学校における進路指導にも大変参考となりました」「生徒の顔

◆参加企業経営者(敬称略)
▽石塚 巧 キヤノン電子株式会社 専務取締役

がお話を伺ううちに明るくなっていくのが傍でわかりました。本人と保護者の方が一番不安に思っていたことが、社長さんのお話で楽な気持ちになったようです。自分自身に対して良いイメージを持って生きることの大切さを、丁寧に優しく語っていただき私自身も参考になり、この面談会に参加し有意義でした」などの感想が寄せられた。このように四者面談会は毎年参加した生徒・保護者・教員から高い評価を得ている。



松本 伸一郎 (株)松本商会 代表取締役社長



石塚 巧 キヤノン電子(株) 専務取締役

▽中込 秀明 富士電子株式会社 代表取締役社長
▽松本伸一郎 株式会社松本商会 代表取締役社長
▽佐藤 誠 株式会社あすかビルサービス 代表取締役社長
▽根岸 節子 社会福祉法人単人会まきば園 理事・施設



根岸 節子 社会福祉法人単人会まきば園 理事・施設



佐藤 誠 (株)あすかビルサービス 代表取締役社長



中込 秀明 富士電子(株) 代表取締役社長



コバトン

埼玉県 からの お知らせ

合同入社式・合同研修会を開催します

県では、県内中小企業の若手社員の定着促進を図るために、「県内中小企業新入社員合同入社式・合同研修会」を開催します。

合同入社式では、上田清司埼玉県知事から、新入社員に向けた激励の言葉や応援メッセージカードを贈るとともに、経済団体や先輩社員が応援・激励の言葉を伝えま

す。また、箱根駅伝などで活躍されている、東洋大学陸上競技部長距離部門監督の酒井俊幸氏による講演も予定しています。

5～6月及び9～10月に実施する合同研修会では、ビジネスマナー等の基礎的な研修や交流会を通じて、新入社員同士の交流や仲間づくりを支援することで、新入社員の職場定着を後押しします。

【合同入社式の概要】

- ①内容
 - ・知事挨拶
 - ・応援メッセージカード贈呈
 - ・新入社員代表誓いの言葉
 - ・経済団体からの挨拶
 - ・先輩社員の激励
 - ・酒井俊幸氏による講演
 - （演題「たすきリレーのその先に見えたもの」）
 - ②日時 平成29年4月17日(月) 午後2時～午後3時30分
 - ③会場 埼玉会館小ホール (さいたま市浦和区)
 - ④定員
 - ・新入社員等※300人
 - ・企業関係者、御家族100人(申込順)
- ※卒業後3年程度までの採用者等も含みます。

【合同研修会の概要】

合同入社式参加者を主な対象に、県内5地域で計2日間の研修を左記のとおり実施する予定です。また、研修終了後には、仲間づくりを進める交流会(軽食付き)を予定しています。

- ①基礎研修(5～6月実施)
 - ・ビジネスマナーの基本
 - ・社会人としての心構え
 - ・グループワーク
 - ・交流会 など
- ②フォローアップ研修(9～10月実施)
 - ・課題解決と目標設定
 - ・チームに貢献する仕事の進め方
 - ・交流会 など

※合同入社式・合同研修会の詳細はHPを御覧ください。

<https://www.prefsaitama.lg.jp/a0808/goudou.html>



昨年の合同入社式の様子

お問い合わせ先
県勤労者福祉課
(048-830-4518)

「不本意非正規」 「働き方改革」で共同宣言

本年2月16日、知事公館において、埼玉県公労使会議が開催されました。この会議では、構成メンバーである埼玉県経営者協会をはじめとする県内経済団体、労働団体、埼玉労働局、県の計8団体の



代表者が、非正規雇用対策や働き方改革に連携して取り組むことについて、共同宣言」に署名し、意見交換を行いました。今後は、

「共同宣言」に基づき、「不本意非正規」の処遇改善、正規雇用への登用や、長時間労働の是正など「働き方改革」について、公・労・使が共同またはそれぞれの立場で取組を行ってまいります。

お問い合わせ先

県勤労者福祉課
(048-830-4517)

スキルアップ講習

5月開講講座のお知らせ

県では、働いている方を対象に実務に役立つ短期間の技能講習を実施しています。仕事のスキルを高めたい方や資格取得を目指す方、社員のスキルアップをお考えの企業はぜひ御活用ください。

講習内容

- 電気工事士筆記試験準備講習、Word、powerpoint、CADなど多数
- 実施場所 県内高等技術専門学校・職業能力開発センター(講座により異なります)
- 受講料 2,000円～6,700円(別途テキスト代がかかります)
- 申込み期間 4月1日～10日
- 講習日程 5～6月中の2～10日間(講座により異なります)

お問い合わせ先

県産業人材育成課
(048-830-4598)

平成29年度前期技能 検定試験のお知らせ

働く人々の有する技能を検定す

る技能検定試験(国家検定)のお知らせです。

- 受検資格 製造業や建設業など、該当する検定職種に関する実務経験がある人
- 試験日程 平成29年6月5日(月)～9月10日(日)(職種により異なります)
- 受検申請書配布場所 県職業能力開発協会(さいたま市浦和区北浦和5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎5階)
- 申請期間等 4月3日(月)～14日(金)に同協会へ提出

※技能検定制度の概要については、県産業人材育成課HPを御覧ください。

<https://www.prefsaitama.lg.jp/a0811/kenitei/index.html>



実技試験の様子(機械加工職種)

お問い合わせ先

県職業能力開発協会
(048-829-2802)
県産業人材育成課
(048-830-4602)

青年経営者部会

一二月例会開催

「先輩経営者に学ぶシリーズ」第三弾

(株)ハイデイ日高代表取締役会長 神田 正氏講演会を開催

一二月例会がパレスホテル大宮にて開催され、二六名が参加した。

「先輩経営者に学ぶシリーズ」



講演をされる(株)ハイデイ日高 神田 正会長



貴重な機会を求め多くのメンバーが参加した講演会



「サクセスストーリー」と「人情経営」に触れ、会場も沸く



例会感想や近況報告で一層懇親を深めた懇親会

の第三弾として「地域に愛されれば利益はついてくる」客も従業員も幸せにする人情経営を目指す」と題して、(株)ハイデイ日高代表取締役会長 神田 正氏による講演と懇親会を行った。

◆講演会概要

小さなラーメン屋から始まり一大会社にまで成長させたサクセスストーリーと「人情経営」の考えに基づいた経営理念、今後の展望についてご講演をいただいた。神田会長は、中学卒業後、工場勤務やラーメン店勤務の後、二十九歳で独立。二〇〇二年に現在の主力業態である「日高屋」の展開を開始され、「ちよい呑み」の需要を取り込み、一大ラーメンチェーンを築き上げた。二〇〇六年東証一部上場。現在の店舗数は四〇一店舗を数える。

幼少の頃から現在までの様々な体験談を数多く挙げ「色々な苦労をして、色々な恥をかいて今がある。ラーメンとめぐり合っただけのことかを一生懸命やったら膨れ上がった」と話された。

また、経営において大切なこととして「情熱・やる気」「決断」「人が全て(人を大事にする)」「最大のライバルは「時代の変化」(見抜いてそこに対応できるかどうか)

か」を挙げられた。

中でも人情経営に関しては「お客様に感謝する気持ち」が大手と戦える武器の一つになる」と触れ、最後に、今後の展望として「二〇〇〇店舗を目指す。人生後悔したくない」と結ばれた。

神田会長にも懇親会に出席いただき、講演の内容について更に深くお話しを伺うことができ、大変貴重な機会になった。また、年末

◆懇親会

「打つ手は無限にある」という言葉が特に胸に響いた。神田会長の謙虚さと若々しさの源を知ることができた。

青年経営者部会

千葉・茨城との合同例会

「本田技研工業(株)埼玉製作所寄居完成車工場視察会&合同懇親会」Hondaの革新技術を投入した「世界トップクラスの省エネルギー工場」を見学する」を開催

一月一九開催の青年経営者部会の千葉・茨城との合同例会は、本田技研工業(株)埼玉製作所の特別にご厚意により、寄居完成車工場にて開催され三〇名が参加した。

埼玉県内には、埼玉製作所として、本田技研工業(株)の中核を支える拠点が三箇所(狭山完成車工場、小川エンジン工場、当工場)あり、この内二〇一三年に稼動した寄居完成車工場は、フィットシリーズを中心とした、ホンダの小型車を

ということもあり、参加者全員が近況報告を行うなど、様々な情報交換の機会となった。

◆参加者感想

神田会長のお人柄、人格がにじみ出た素晴らしい講演だった。情熱を持ち続ける大切さが身にしみた。

「打つ手は無限にある」という言葉が特に胸に響いた。神田会長の謙虚さと若々しさの源を知ることができた。

生産しており、年間二五万台の生産能力を持つ世界のマザー工場。

また「最も環境負荷の小さい製品を最も環境負荷の小さい工場で作りに出す」をコンセプトに、Hondaの革新技術を投入し、高効率な生産体制を構築することで、人と環境に配慮した世界トップクラスの省エネルギーを実現している。

当日は、栗原志功部会長(株)あなたの幸せが私の幸せ代表取締役社長)から開会の挨拶があり、次



工場見学に向かう参加者



千葉・茨城・埼玉から30名が参加



近隣3県での合同懇親会で交流を深めた



見学後は多くの質問が寄せられた

に、本田技研工業(株)埼玉製作所寄居工場 生産業務室総務ブロック 寄居総務グループ主任 一ノ瀬 壯氏より、当工場に関する概要説明があった。また、寄居完成車工場の車体生産の流れは「プレス↓溶接↓塗装↓車体組立完成車検

査」を経て出荷されるが、その中で今回の視察では、多くのボディ部品を組み合わせて溶接ロボットで接合する「溶接工程」、エンジン等の様々な部品が組み込まれて完成車となる「組立工程」を見学した(工場見学の概要は以下の通

り)。見学終了後の質疑応答では、活発な質疑応答が行われた。

会員)で、視察会の感想や近況を述べ合い、互いに懇親を深めた。最後は、茨城県経営者協会青年経営研究会直前会長の磯崎寛也氏よ

◇工場見学の概要

うちを終了となった。

□溶接工程

溶接工程では、インナーフレーム溶接・アウター結合溶接などを

見学。骨組みだった車体に外板が

「変化の時代に求められるリーダーの『覚悟』」(株)コミュニケーションCEO&Founder、元アップル・ジャパン代表取締役社長 山元賢治氏講演会を開催

青年経営者部会 平成二九年新春特別講演会開催

取り付けられ、時に十数台もの溶接ロボットが同時にかつ瞬時に接合する様子は、飛び散る火花と共に大変な迫力があり「Honda革新技術が投入された工場」であることを目の当たりにすることができた。

二月七日青年経営者部会の平成二九年新春特別講演会がパレスホテル大宮にて開催され、九〇名が参加した。

□組立工程

「変化の時代に求められるリーダーの『覚悟』」と題して、(株)コミュニケーションCEO&Founder、元アップル・ジャパン代表取締役社長 山元賢治氏の講演と、書籍販売会&サイン会、そして懇親会を行った。

組立工程では、溶接工程とは異なり多くの人が作業をしていたが、ラインの流れに合わせて様々な部品がすばやく取り付けられていく様子を見学した。また、この組立棟は、天井や床に設置された照明により、全体的に明るく「一人に優しい環境と自動化による高効率生産」というコンセプトがよく伝わる環境となっていた。

山元氏は、ステイブ・ジョブズから直接指名をされてアップル・ジャパンの代表取締役社長に就任し、iPhoneを日本市場に送り出すまで、国内の最高責任者としてアップルの復活に大きく貢献し、日本にApple旋風を巻

き起こした伝説の経営者。

講演では「グローバル経済下における日本企業の現状」「今後の日本経済の復活の方向」そして「これからのリーダーが持つべき新しい世界の常識や覚悟」といった、変化が常態化した日本の企業経営者に必要な方法論や持つべき覚悟

棟は、天井や床に設置された照明により、全体的に明るく「一人に優しい環境と自動化による高効率生産」というコンセプトがよく伝わる環境となっていた。

に関して、常に厳しいグローバル・カンパニーの経営現場で培ってきた経験や知識を交えたお話が語られた。

具体的な「猛烈な好奇心を持つ」世界のリーダーの共通点(目の前にある平等のチャンスに対して常に好奇心のアンテナを張り巡らせ、情報やチャンスを自分のものにする)「瞬断」瞬断するための勇氣・瞬断するための情報量(リーダーのほとんどの仕事は意思決

断し、日本にApple旋風を巻

定であり、瞬断できるだけの情報収集や訓練、勉強が必要」等、数多くの「変化の時代に求められるリーダーの覚悟」に関して熱く語った。

参加者はその熱いエネルギーに引き込まれるように聴講し「伝説の経営者」から「きづき・しげき・げんき」を得る貴重な機会となった。

また、講演後の書籍販売会&サイン会では、講演で得た気づきをさらに深めようと、書籍を買い求める長蛇の列ができた。

◇懇親会

懇親会では、冒頭、母体組織でもある埼玉県経営者協会会長の上條正仁氏にご登壇いただき「変化を過剰に心配せずに、経営者としてはある意味楽観主義で、勇気をもって次の一步を踏み出して実行を進めていくという一年にしたい」など、期待をしています」といった内容の来賓挨拶をいただいた。また、その後の懇談では、当日入会をされた株ハーツテック埼玉代表取締役の地野章夫氏より、入会のご挨拶をいただいた。参加された経営者協会会員の代表者の皆様と青年部メンバーとで懇親を深める貴重な機会となった。



講演をされる山元賢治氏



母体である経営者協会からも多くの経営者が参加した

※青年部入会に関して

青年部では、毎月行う例会へのオブザーブ参加を随時受付しております。ぜひご参加いただきまして、例会内容や部会の雰囲気等実際にご覧いただけます幸いです。部会員一同、心よりお待ちしております。ご質問は、青年部事務局 町田

(問い合わせ: 青年部事務局 町田)

青年経営者部会 新部会員のご紹介

株式会社 ハーツテック埼玉
代表取締役 地野章夫 様

プラスチックボトル・キャップ製造業 包装機輸入販売業
事業所所在地 〒331-0821
埼玉県さいたま市
北区別所町63-3



懇親会で来賓挨拶をされる経営者協会の上條会長



講演後の書籍販売会&サイン会は大盛況

新労働時間把握 ガイドライン

弁護士 安西 愈

現在、政府の「働き方改革」政策の中心の一つは「長時間労働の是正」である。

そして、政府の「長時間労働削減推進本部」は、「違法な長時間労働を許さない取組の強化」として、企業向けに新ガイドラインを定め、「新労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべきガイドライン」を規定し、平成二十九年一月一〇日から実施した。

ポイント 労働法

このガイドラインは、法令の定めではなく、労働基準監視関を通じた行政指導の基準である。ガイドラインは、「労働基準法」においては、労働時間、休日、深夜業等について規定を設けていることから、使用者は、労働時間を適正に把握するなど適正に管理する責務を有している。」と述べられているが、その責務とは国に対する公法上の義務ということである。

今回定められた新ガイドラインの特徴は、労働時間の考え方を明らかにした点である。労基法では、「労働時間とは何か」という定義は定められていないところから、「労働時間とは、使用者の指揮命令下に置かれている時間のことをいい、使用者の明示又は黙示の指示により労働者が業務に従事する時間は労働時間に当たるとし、「なお、労働時間に該当するか否かは、労働契約、就業規則、労働協約等の定め

のいかんによらず、労働者の行為が使用者の指揮命令下に置かれたものと評価することができるか否かにより客観的に定まるものであること。また、客観的に見て使用者の指揮命令下に置かれていると評価されるかどうかは、労働者の行為が使用者から義務づけられ、又はこれを余儀なくされていた等の状況の有無等から、個別具体的に判断されるものであること。」と最高裁判決（平成二二・三・九第一小法廷）を引用して定めた。

また、労働時間の把握方法として旧基準は原則として、三つの把握方法を定めていたが、その方法に変わりが無い。しかし、その内容を充実し、明白化した。その一つである自己申告制による場合については、「事業場内にいる時間の分かるデータを有している場合に、労働者からの自己申告により把握した労働時間と当該データで分かった事業場内にいる時間との間に著しい乖離が生じているときには、実態調査を実施し、所要の労働時間の補正をすること。」など踏み込んで定めた。

本ガイドラインは、労働時間の把握方法であり、「タイムカード、ICカード、パソコンの使用時間の記録等の客観的な記録を基礎として確認し、適正に記録すること。」とされているとおり、打刻時間がそのまま労働時間となるのではなく、あくまでも事業所への入場・退場の記録であり、これを基礎とする「使用者の指揮命令下に置かれた」時間を確認し、記録する。したがって、例えばは始業時刻の起算は一般的に早めに出勤するのが通例であるから、早出残業が余儀なくされる事情がない以上、打刻時刻ではなく、原則として所定始業時刻からとなる（平二五・二・二八東京地裁判決）。

事業だより

一月一日～三月二日

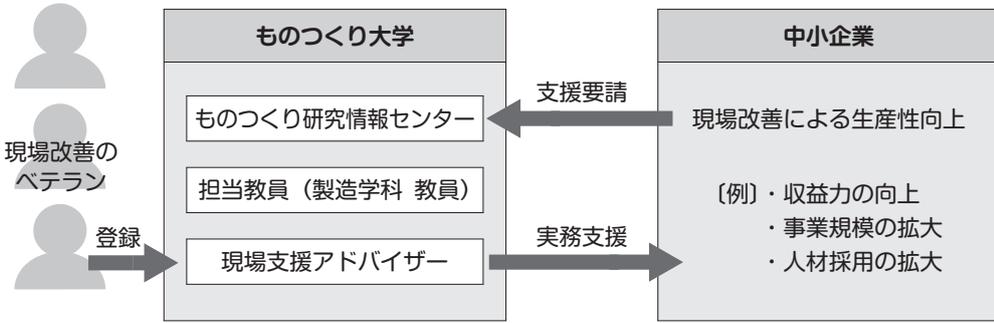
- ◆一・一 新年会員懇談会（パレスホテル大宮）
- ◆一・二 第四回CSR委員会（JOC・味の素ナショナルトレーニングセンター）
- ◆一・二九 第四回特別セミナー（ソニックシティ）
- ◆一・二四 第一四回トップセミナー（ソニックシティ）
- ◆二・一 第五回CSR委員会（県立上尾特別支援学校）
- ◆二・三 キャリア教育実践アワード表彰式（パレスホテル大宮）
- ◆二・六 労働法実務対策講座第二講（ソニックシティ）
- ◆二・七 西部地区協議会（丸広百貨店）
- ◆二・二〇 中部地区協議会（ソニックシティ）
- ◆二・二一 北部地区協議会（マロウドイン熊谷）
- ◆二・二二 ものつくり大学特別公開講座（パレスホテル大宮）
- ◆二・二四 南部地区協議会（川口総合文化センター・リリア）
- ◆三・一 第一回人事労務委員会（ソニックシティ）
- ◆三・六 第五回特別セミナー（ソニックシティ）
- ◆三・七 第三〇回生き生き職場体験交流の集い（ソニックシティ）
- ◆三・一七 第四回人事労務委員会（ソニックシティ）
- ◆三・二二 理事会（パレスホテル）

ものつくり大学が、中小企業の現場活性化支援!

ものづくり生産現場のあらゆるムダ排除による生産性向上を経験豊富なアドバイザーが実務支援します。

低廉な費用
月4回、アドバイザー(1人)が支援する場合、月額で80,000円程度

- 主な支援内容**
- 強み・弱みの分析・評価
 - 品質の作り込み化と歩留向上
 - 在庫削減とリードタイムの短縮
 - 設備稼働効率化、段取り時間短縮
 - 生産管理のしくみ改革、システム構築
 - 生産性を考慮した製品設計改善



お気軽にご相談ください ●お問い合わせ ☎048-564-3880(代表)(土・日・祝日休)
ものつくり大学 ものつくり研究情報センター
コーディネータ 柳瀬 貞春 E-Mail: mric@iot.ac.jp



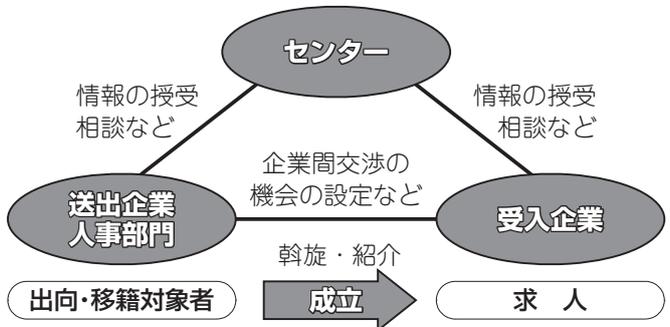
全国ネットの人材情報で、出向・移籍等の支援!

お気軽にご相談ください

企業間の人材マッチングをサポートしています。

信頼と安心
経済・産業団体と厚生労働省の協力で設立された公益法人です。

無料
情報の提供、相談、あっせんの費用はかかりません。



出向・移籍の専門機関

公益財団法人 産業雇用安定センター

埼玉事務所 ☎048-642-1121(土・日・祝日休)
<http://www.sangyokoyo.or.jp/>

★新入社員研修

日時 四月四日(火)・五日(水)九時三〇分
～一六時四十五分

会場 ソニックシティ四〇三・四〇四

内容 講義・ビジネスマナー

講師 りそな総合研究所(株)パートナー
講師 古澤美奈子氏・遠藤康子氏

★第一回トップセミナー

日時 四月七日(金)一三時三〇分～一六
時三〇分

会場 ソニックシティ四〇三・四〇四

内容 チームの可能性を最大限引き出し組織を成功に導くための「七つの習慣マネージャー」

講師 フランクリン・コヴィー・ジャ
パン(株)取締役副社長 竹村富士
徳氏

★理事会・幹事会

日時 四月一日(木)一三時三〇分～
八時

会場 パレスホテル大宮

内容 議案、講演会、懇親会

講師 立正大学経済学部教授(東京大
学名誉教授) 吉川 洋氏

★第一回ウーマノミクス推進委員会

日時 四月一日(金)一三時三〇分～
一六時三〇分

会場 ソニックシティ四〇三・四〇四

内容 明日を担う女性リーダーを育成

する。女性管理職誕生！ご本人
なら九〇日間、何をしています
か？上司ならどんな育成をしま
すか？

講師 ビジネスコーチ(株)パートナーエ
グゼクティブコーチ 加地照子
氏

★平成二九年度埼玉県産業労働部主要
施策説明会

日時 四月一九日(水)一四時～一六時

会場 ソニックシティ四〇三・四〇四

内容 埼玉県産業労働部主要施策説明
会

★管理者のための仕事の渋滞解消術

日時 四月二〇日(木)九時三〇分～一六

会場 ソニックシティ四〇三・四〇四

内容 仕事の渋滞を解消し職場の生産
性向上を実現する。仕事の渋滞
解消術を一日でマスターする。

講師 (株)人材育成社取締役 芳垣玲子
氏

★平成二九年度定時総会

日時 五月一〇日(水)一三時三〇分～一
八時

会場 パレスホテル大宮

内容 平成二八年度決算・事業報告、
平成二九年度予算・事業報告

講師 (株)日本人材機構 代表取締役社
長 小城武彦氏

★第二回トップセミナー

日時 五月一日(月)一四時～一六時

会場 ソニックシティ四〇四

内容 「安保論争」～日本ではなぜ奇
妙な「正義」がまかり通るのか

講師 慶応義塾大学法学部教授 細谷
雄一氏

★第四回上條会長杯争奪戦会員親睦コ
ルフ大会

日時 六月二日(金)八時二十八分スタート

会場 武蔵カントリー倶楽部豊岡コー
ス

むさしのカード(株)
取締役社長
加藤 正彦(旧 木村 健司)

〈住所変更〉

e・ライフサポート(株)
さいたま市北区奈良町三二一六 う
いずクリニック大宮2F
(旧)さいたま市北区吉野町二二二
一四一三

(株)日中医療福祉支援機構
さいたま市北区奈良町三二一六 う
いずクリニック大宮2F
(旧)さいたま市大宮区上小町四六
八二〇六

埼経協ニュース三九七号
2017年3月24日発行
さいたま市大宮区桜木町一七五・一七
七
ソニックシティビル九階
発行所 一般社団法人埼玉県経営者協会
発行人 根岸茂文
編集人 廣澤健一
電話(四八)六四七・四〇〇

印刷所 望月印刷株式会社
さいたま市中央区阿弥五八三六

〈新入会のご案内〉

社会保険労務士法人あおば関口事務所

所長 関口 光英
秩父市桜木町九一五 国土ビル2
01
電話〇四九四一二五〇〇四九七
(資)三百万円
(従)五名

社会保険労務士業、労務コンサルタ
ント、給与計算代行

(株)和泉石材店
代表取締役 青野 明男
さいたま市見沼区大字御蔵二二八一
一〇
電話〇四八一六八五五九八〇
(資)二千万円
(従)一五名

石材加工販売
(株)エイチワン
代表取締役社長執行役員
金田 敦
さいたま市大宮区桜木町一〇一
五
電話〇四八一六四三〇〇一〇
(資)四十三億六千六百万円
(従)一三〇〇名

自動車部品製造

NTTコムマーケティング(株)北関東管
業所
営業所長 矢野 啓治
さいたま市浦和区常盤九一〇一
九 NTT北浦和ビル2F
電話〇四八一八四一四二七六三
(資)一億円
(従)四名

情報通信業(1. 法人層に対するポ
リス系・IPサービス業務、2. フ
リゲイタル、ナビゲイタル、IP電
話等の販売支援、3. NTT Co
m販売代理店(多店舗系代理店等)に
対するIPサービスの販売支援等)

欧米自動車(株)
代表取締役 杉田 裕一
上尾市上野三三一一
電話〇四八七八三三五五四五
(資)三百万円
(従)八名

輸入・国産自動車及び自動車部品の
輸入、販売並びに修理

オリジン電気(株)
代表取締役社長 妹尾 一宏
さいたま市中央区新都心一〇二二明
治安田生命さいたま新都心ビル13F
電話〇四八七五五九七七一
(資)六十一億三千二百五十万

円

電源機器、半導体デバイス、精密機
構部品、システム機器及び合成樹脂
塗料の製造販売

(株)古浦産業
代表取締役 古浦 博一
本庄市児玉町児玉南一〇一〇二四
電話〇四九五七三三三九五五
(資)一千四百万円
(従)九名

内装仕上工事、その他

大栄不動産テレポートメント(株)
代表取締役 佐々木 茂
中央区日本橋室町一〇一八
電話〇三三三二四四一五五八五
(資)九千五百万円
(従)一〇名

不動産の売買・仲介、不動産証券化
ファンド等への出資他

田中建設工業(株)
代表取締役社長 采澤 和義
港区新橋四二四一
電話〇三三三三三三三三三三三三三
(資)四千八百万円
(従)六二名

解体工事業

中里建設(株)
代表取締役 中里 昱夫

東松山市松本町一〇二一六
電話〇四九三三三三三三三三三三三
(資)一億円
(従)四三名

総合建設業

(株)ハーツテック埼玉
代表取締役 地野 章夫
さいたま市北区別所町六三三三
電話〇四八八六六二二五一一八五
(資)一千万円
(従)一四名

プラスチック製造業

(株)三ヶ島製作所
代表取締役社長 荻野 敏行
所沢市糞谷一七三三
電話〇四二九四八一一二六二
(資)四千六百万円
(従)八五名

輸送機器部品製造、自転車用ペダル
及び自動車部品

e・ライフサポート(株)
代表取締役
高橋 利憲(旧 小柳 昭)

(株)三榮建設
代表取締役
松元 千壽子(旧 松元 三郎)

代表取締役

代表取締役

代表取締役

代表取締役

代表取締役

代表取締役